

ウーマン・テニユア・トラック制のあゆみ
(2009年～2020年)

Woman Tenure Track System

国立大学法人 岡山大学

ダイバーシティ推進本部
男女共同参画室



目次

男女共同参画室長 挨拶

◆	ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 制	1
◆	ウーマン・テニユア・トラック制の概要	2
	WTT制の構築	2
	WTT制とは	2
	制度設計	4
	実施体制・選考手順	5
	新：令和2年度以降の体制	8
	旧：令和元年度までの体制	12
◆	WTT制の実績	14
	公募領域	14
	採用実績	23
	教員紹介	24
◆	イベント等実施報告	33
◆	イベント実施報告	34
	WTT教員研究発表会	34
	女性研究者シーズ発信会	34
	おかやまサイエンストーク・トライアル	42
◆	広報誌紹介	48
	女性研究者シーズ集	48
◆	WTT制の継続	49
◆	WTT制の推進	50
	様々な事業によるWTT制の推進	50
	WTT制の継続が若手女性研究者の活躍促進へ	50
◆	テニユアトラック普及・定着事業	51
	事業概要	52
	申請概要	54
	テニユア・トラック制の推進	59
	補助事業概要	61
	中間評価・事後評価の実施	62
	事業実施期間および評価結果①～⑤	64

ごあいさつ

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
(大学病院ダイバーシティ推進センター 教授)
室長 片岡 仁美

岡山大学では、平成21年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に採択されて以降、女性研究者を積極的に採用し、働きやすい教育・研究環境を整備するとともに、女性研究者の裾野を広げるための取組・支援を行ってきました。

特に、大学の自主財源により平成22年度から運用開始した「ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 制」は、女性研究者に競争的環境の中で自立と活躍の機会を与え、研究と家庭生活との両立を支援することにより、優秀な若手研究者の雇用・育成を促進し、大学全体の教育・研究を活性化させることを目的として継続・実施しています。優秀なWTT教員の雇用・育成は、長期的視点で女性研究者の増加に貢献し、WTT教員の多くの者がテニユアを取得した後は、上位職へ昇任しており、WTT制の継続が女性研究者の活躍促進に繋がっています。

また、平成23年度、平成24年度、平成25年度、平成27年度には文部科学省科学技術人材育成費補助事業「テニユアトラック普及・定着事業」に採択されたことにより、学内においてWTT制の理解が深まり、テニユア・トラック制が浸透・普及したことは顕著であります。

平成27年度には「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (特色型)」、令和元年度には「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (先端型)」にも採択され、女性研究者の上位職登用、採用比率向上、活躍促進など、さまざまな取組を実施し、ダイバーシティ研究環境の整備が進んでおります。

本報告書では、これまで取り組んで参りましたWTT制の概要、WTT教員の研究内容等を冊子として取りまとめております。

今後も本事業で培われた経験と実績を踏まえて、女性研究者の雇用・育成・定着を推進し、「岡山から世界に、新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学」を目指して参りますので、引き続き、皆様のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年3月

ウーマン・テニユア・トラック (WTT) 制

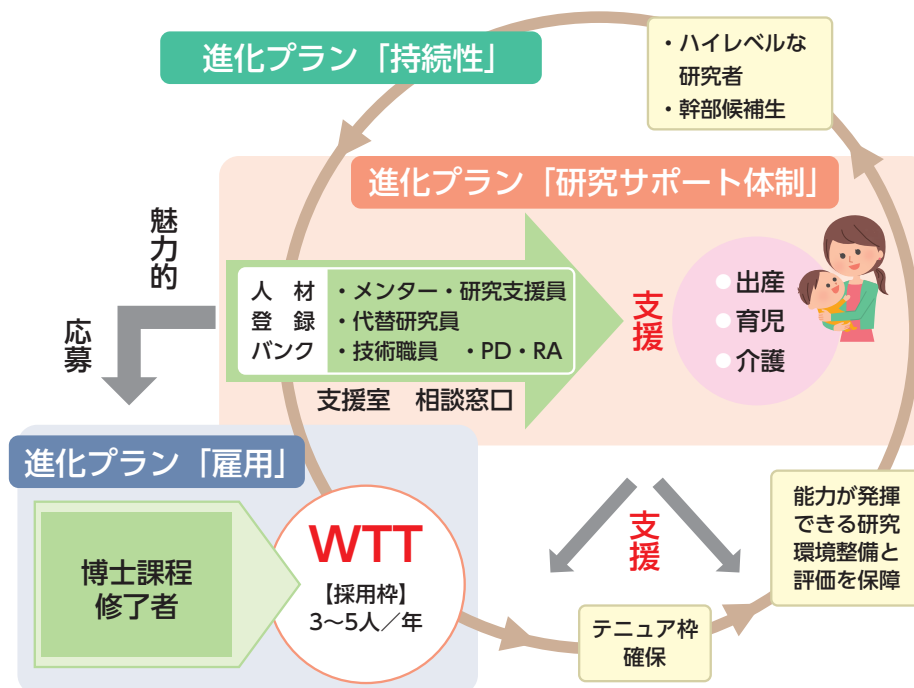


ウーマン・テニユア・トラック制の概要

ウーマン・テニユア・トラック制の構築

平成21年度、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者研究活動支援事業（女性研究者支援モデル育成）」に採択され、質の高い女性研究者の雇用・育成とその持続性を図る仕組みとして「学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン」を構築した。

進化プランを遂行するにあたり、女性教員の雇用促進を目的にした具体的な取組の一つとして、在職比率が低い理系分野に女性研究者のための採用枠を設け、優秀な若手女性研究者をウーマン・テニユア・トラック（以下WTTとする）教員として採用する人事システム「WTT制」を平成21年度に構築した。同時に、WTT制を円滑に運用するため「国立大学法人岡山大学におけるWTT制の実施に関する規程」を制定した。

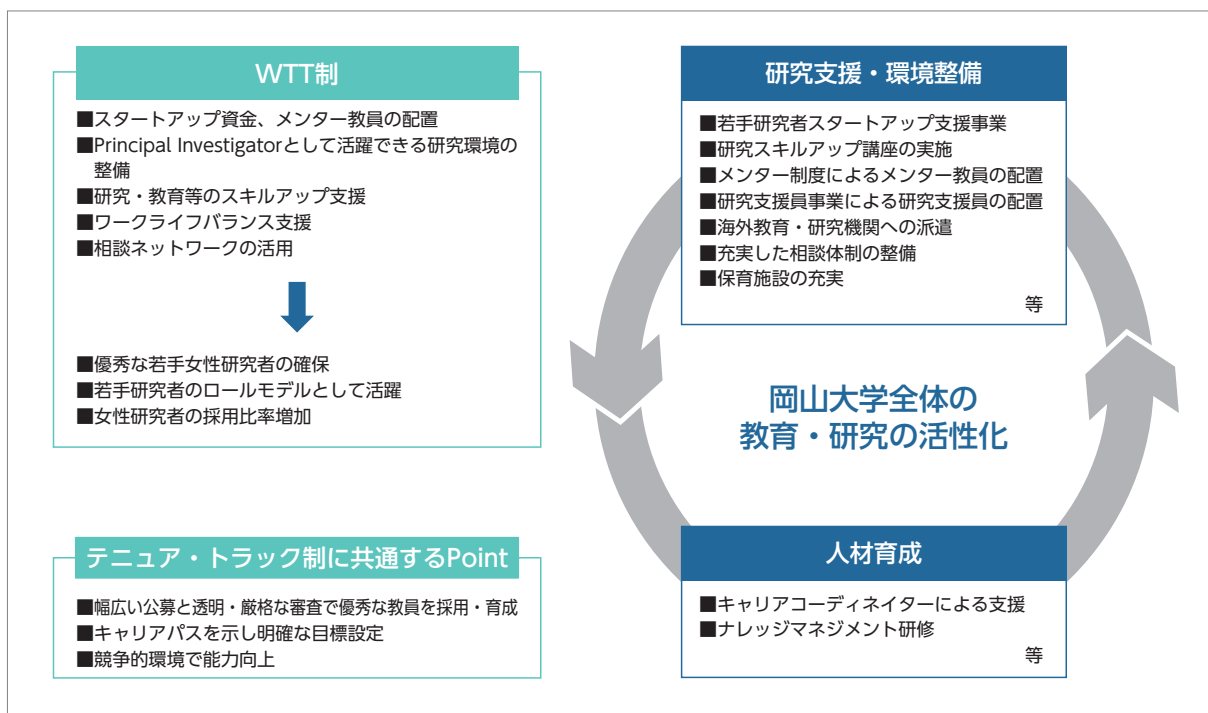


学都・岡大発 女性研究者が育つ進化プラン

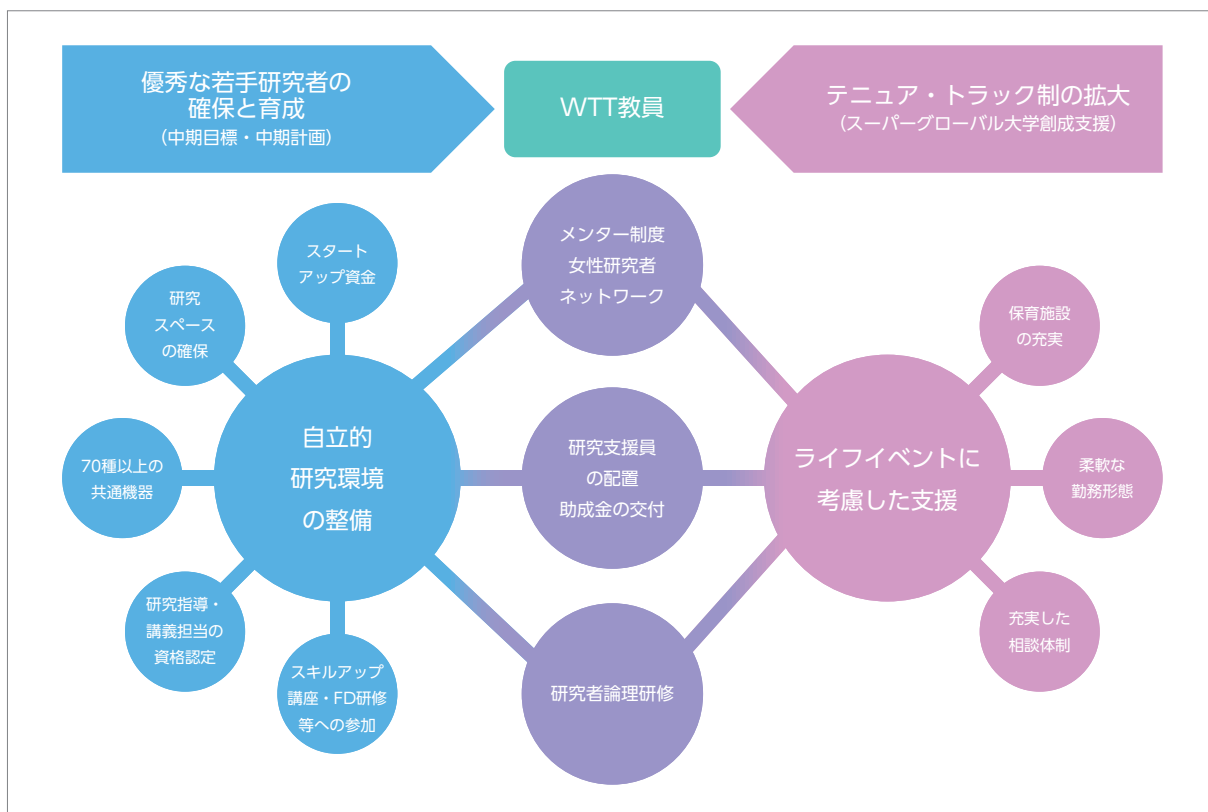
WTT制とは

WTT制は、WTT教員が任期中にそれぞれの所属研究科において、自立した研究者としての経験を積み、テニユア審査を経てテニユア教員（任期を付さない職）として採用する制度である。WTT教員にはメンター教員を配置し、ライフイベントに配慮したサポート体制を整えることで、女性研究者の資質・能力を教育・研究へ発揮できるよう支援している。

平成27年度には、文系分野も参画し、本学すべての研究分野に適用できることとなった。これまでWTT教員は、平成22年度第I期から令和2年度第XI期まで合計26人を採用している。なお、WTT教員の雇用経費は、大学の自主財源により賄われている。



自立的研究環境の整備と育成・支援



サポート体制

制度設計

◆ 任期

WTT制を構築した当初は、WTT教員の任期を3年間と定めていたが、平成23年度の科学技術人材育成費補助事業「テニユアトラック普及・定着事業」採択時、テニユア・トラック教員の任期について3年間では短いとの指摘があり、平成24年度採用者以降、任期を5年間に変更した。ただし、平成24年度第Ⅲ期WTT教員については、3年目にテニユア審査を実施するものの、最長5年間までテニユア・トラック期間を延長できる経過措置をとった。

なお、任期5年間に变更后、3年目の中間評価においては、ライフイベント等の理由があれば、実施時期の延長（6ヶ月後または1年後）を可能とした。

◆ メンター教員の配置

WTT教員には、それぞれメンター教員を配置している。メンター教員は、WTT教員自らが計画した研究テーマの進展を支援するとともに、WTT教員の教育・研究活動における独立性及び自立性を育みながら、自立的研究環境の構築を支援している。

◆ 給与等待遇面

WTT制では、博士課程修了者の給与制度を基準に、特別契約職員 助教（特任）として雇用している。任期を3年から5年に変更したことに伴い、平成24年度には文部科学省共済組合保険への加入等、待遇の改善を行った。また、令和2年度には別途通勤手当を支給することとした。

年度	平成22年度	平成24年度	平成30年度	令和2年度
年俸額	300万	360万	360万	360万
一時金	なし	標準30万/年	標準60万/年	標準60万/年
年俸額＋一時金	300万	390万	420万	420万
週の就業時間/ 勤務体系	31時間15分/ 専門業務型 裁量労働制	38時間45分/ 専門業務型 裁量労働制	38時間45分/ 専門業務型 裁量労働制	38時間45分/ 専門業務型 裁量労働制
諸手当	年俸額に含む	年俸額に含む	年俸額に含む	年俸額に含む 但し、通勤手当 のみ別途支給
社会保険	健康保険 厚生年金保険	文部科学省 共済組合保険	文部科学省 共済組合保険	文部科学省 共済組合保険

◆ スタートアップ資金の措置

第Ⅰ期・第Ⅱ期WTT教員には、1年目及び2年目に各100万円を配分した。平成23年度にテニユアトラック普及・定義事業に採択され、WTT教員には補助金による研究費の配分がされたため、第Ⅲ期WTT教員から自主財源によるスタートアップ資金の配分を見合わせた。しかし、使用用途に制限がある等の理由により、平成25年度第Ⅳ期WTT教員以降、採用初年度に限り20万円を配分した。

テニユアトラック普及・定着事業の補助対象期間が終了した平成28年度第Ⅶ期以降のWTT教員には、1年目及び2年目に100万円のスタートアップ資金を配分している。

実施体制・選考手順（令和2年度以降）

◆ 組織の体制

令和元年度までWTT制を実施していた組織「WTT人事協議会」及び「WTT教員評価委員会」を「WTT教員人事委員会」に改編し、令和2年度から適用することとした。

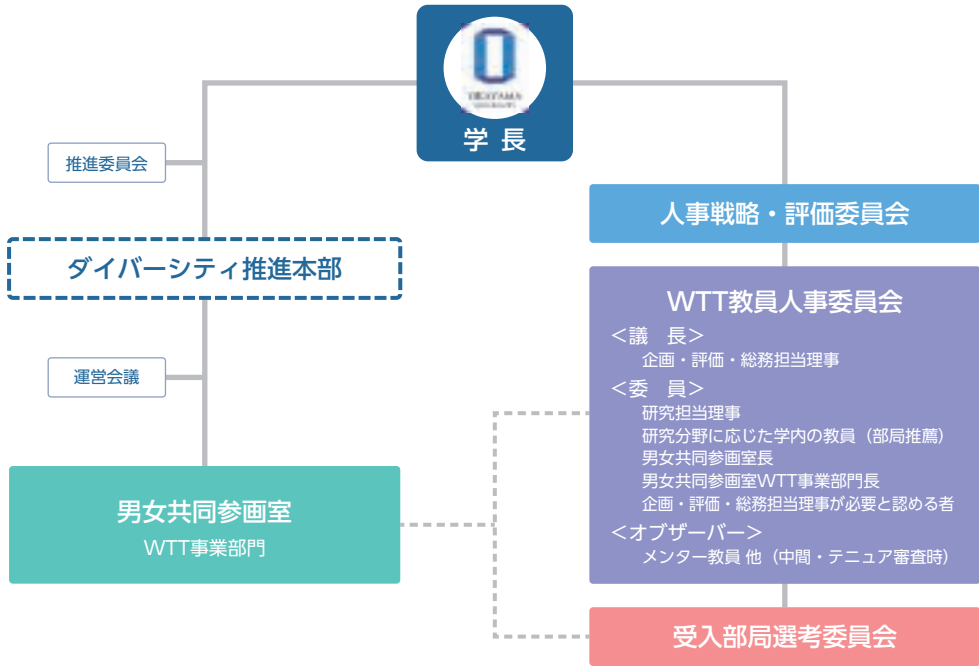
「WTT教員人事委員会」においてWTT教員候補者の予備決定、中間評価・テニユア予備審査を行い、WTT教員の公募から審査・決定に至る業務については、男女共同参画室内に設置しているWTT事業部門が実施している。

◆ WTT教員人事委員会の構成

議長：企画・評価・総務担当理事

委員：研究担当理事、当該研究領域の学内委員、男女共同参画室長、

男女共同参画室WTT事業部門長、その他企画・評価・総務担当理事が必要と認めた者



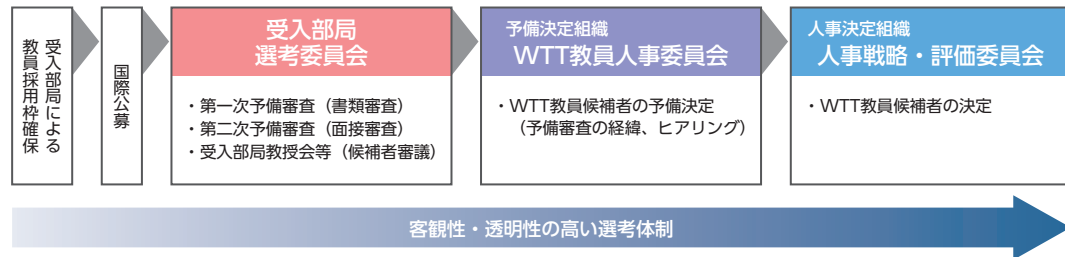
実施体制

◆ 採用決定

受入部局選考委員会において、第一次予備審査（書類選考）、第二次予備審査（面接、ヒアリング）を実施し、審査結果の順位付けの後、受入部局教授会等において決定する。

その選考結果に基づき、WTT教員人事委員会において、予備選考の経緯、選考結果のヒアリングを実施し、採用審査基準に基づき、候補者の予備決定を行う。

予備決定後、本学の人事決定組織である人事戦略・評価委員会において協議し、候補者を決定する。



採用までのプロセス

◆ 中間評価

採用後、3年目終了の4ヶ月前までにWTT教員人事委員会が中間評価を行う。

中間評価資料による書面・面接審査: WTT教員から提出された研究業績、教育業績等に関する評価資料をWTT教員人事委員会委員が査読後、WTT教員の面接（プレゼンテーション、質疑応答）を行い、研究等の進捗状況について総合的に評価し、WTT教員人事委員会としての総合評価を5段階で判定する。

評価結果の通知: WTT教員及びメンター教員にWTT教員人事委員会の総合評価結果（5段階）を通知すると同時に、WTT教員人事委員会委員からのコメントを記載した審査票を通知し、今後の研究計画に対する指導・助言を行う。

特 例: 3年目の中間評価時に特筆すべき実績があり、すでにテニュア基準に達していると評価された場合には、テニュア審査を実施し、5年間の任期を待たずにテニュア教員に採用することがある。

◆ テニュア審査

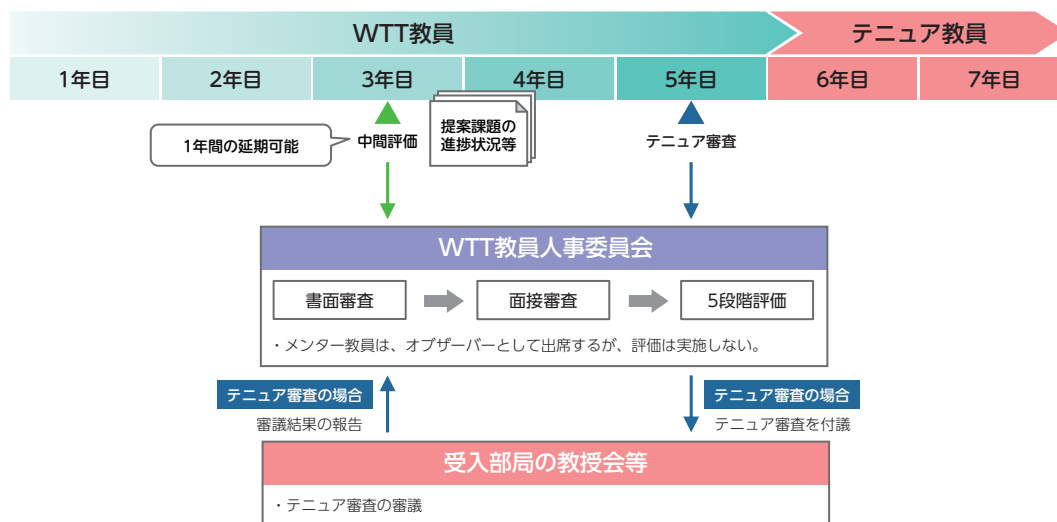
採用後、5年目終了の4ヶ月前までにWTT教員人事委員会がテニュア予備審査を行った後、受入部局がテニュア審査を実施する。

テニュア審査資料の書面・面接審査: WTT教員から提出された研究業績、教育業績等に関する審査資料をWTT教員人事委員会委員が査読後、面接（プレゼンテーション、質疑応答）を行い、研究計画等の達成状況について総合的に評価し、WTT教員人事委員会として総合評価を5段階で判定し、テニュア基準を満たしているか審議する。

評価結果の通知: WTT教員人事委員会で決定した総合評価結果（5段階）をWTT教員及びメンター教員に通知すると同時に、WTT教員人事委員会委員からのコメントを記載した審査票を通知し、今後の研究計画に対する指導・助言を行う。

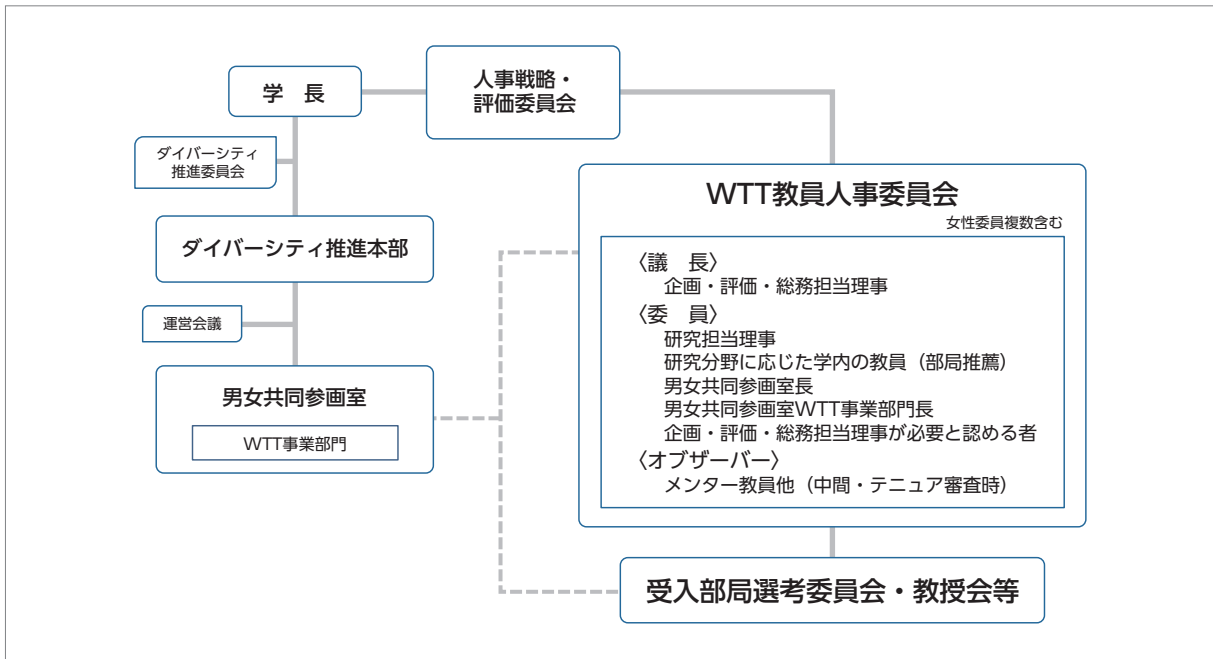
テニユア付与の審議：WTT 教員人事委員会において、テニユア付与可と決定後、テニユア教員の受入部局教授会へテニユア審査を付議する。受入部局においてテニユア審査を実施し、テニユア付与の可否を決定する。

テニユア付与可否の通知：決定したテニユア付与可否の結果を WTT 教員及びメンター教員に通知する。

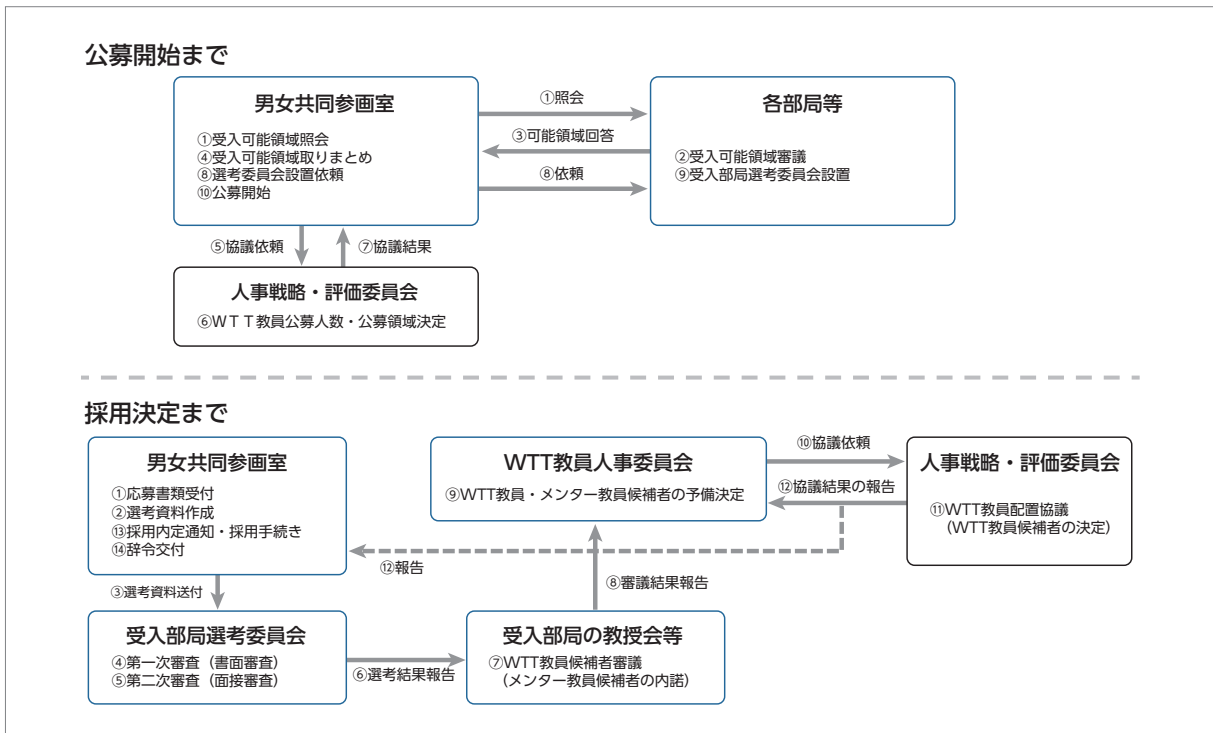


テニユア付与までのプロセス

新 令和2年度以降の体制



WTT 教員選考組織図



WTT 制に関する手順

参考 旧実施体制・選考手順（平成22年度～令和元年度）

◆ 組織の体制

WTT教員の選考及び中間評価、テニユア審査については、以下3つの委員会が行い、WTT教員の公募から審査・決定に至る業務については、男女共同参画室内に設置しているWTT事業部門が実施。

- ・WTT人事協議会
- ・WTT教員評価委員会
- ・受入部局教員予備選考委員会

◆ WTT人事協議会の構成

議長：企画・評価・総務担当理事

委員：各研究科長及び男女共同参画室長、男女共同参画室WTT事業部門長、その他企画・評価・総務担当理事が必要と認められた者

◆ WTT教員評価委員会の構成

公募年度ごとに設置するWTT教員評価委員会において、WTT教員候補者の選考からテニユア審査まで実施する。委員会は、当該研究領域の学外委員と学内委員で構成する。なお、WTT教員評価委員には、WTT教員候補者の現在・過去の指導教員、メンター教員となる可能性を有する教員は除外している。

◆ 採用決定

受入部局予備選考委員会において、第一次予備審査（書類選考）、第二次予備審査（面接、ヒアリング）を実施し、審査結果の順位付けを行う。その後、WTT教員評価委員会において、予備選考の経緯、選考結果のヒアリングを実施し、採用審査基準に基づき、候補者の予備選考を行う。

WTT教員評価委員会から予備選考結果の報告を受け、WTT人事協議会にて審議後、受入部局へWTT教員候補者の審査を付議し、その結果を受けて、WTT人事協議会においてWTT教員候補者及びメンター教員候補者を決定する。

◆ 中間評価

採用後、3年目の終了4ヶ月前までにWTT教員評価委員会が中間評価を行う。

中間評価資料による書面審査：WTT教員から提出された研究業績、教育業績等に関する評価資料をWTT教員評価委員会委員が査読し、研究業績等各項目について、順調に成果を上げているかを5段階評価する。

面接審査：WTT教員評価委員会委員がWTT教員の面接（プレゼンテーション、質疑応答）を行い、中間評価資料の評価結果を加味しながら、研究等の進捗状況について総合的に評価し、WTT教員評価委員会としての総合評価を5段階で判定する。

評価結果の報告：WTT教員評価委員会が判定した結果をWTT人事協議会に報告する。

評価結果の通知：WTT教員及びメンター教員にWTT教員評価委員会の総合評価結果（5段階）を通知すると同時に、WTT教員評価委員会委員からのコメントを記載した審査票を通知し、今後の研究計画に対する指導・助言を行う。

特 例：3年目の中間評価時に特筆すべき実績があり、その段階でテニユア基準に達していると評価された場合には、テニユア審査を実施し、テニユア教員に採用することがある。

◆ テニユア審査

採用後、5年目の終了4ヶ月前までにWTT教員評価委員会がテニユア予備審査を行う。

テニユア審査資料の書面審査：WTT教員から提出された研究業績、教育業績等に関する審査資料をWTT教員評価委員会委員が査読し、テニユア予備審査基準に則り、5段階で評価する。

面接審査：WTT教員評価委員会委員がWTT教員の面接（プレゼンテーション、質疑応答）を行い、審査資料の評価結果を加味しながら、研究等の進捗状況について総合的に評価し、WTT教員評価委員会として総合評価を5段階で判定し、テニユア基準を満たしているか審議する。

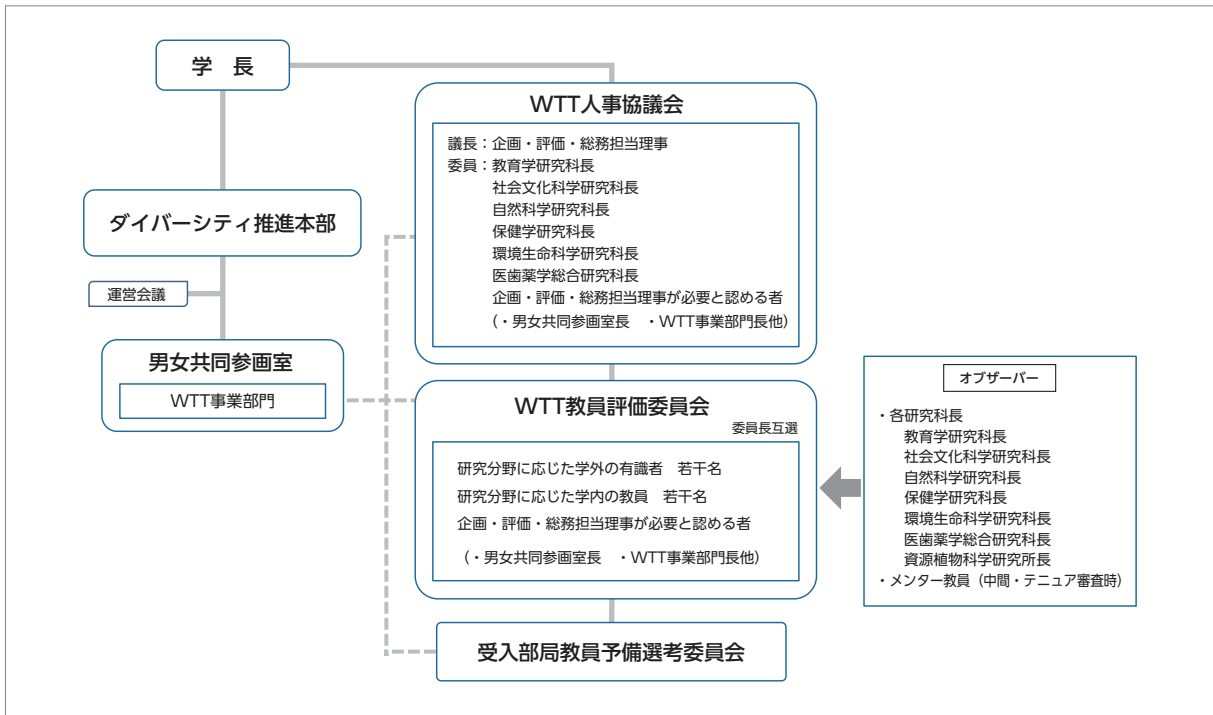
評価結果の通知：WTT教員評価委員会で決定した総合評価結果（5段階）をWTT教員及びメンター教員に通知すると同時に、WTT教員評価委員会委員からのコメントを記載した審査票を通知し、今後の研究計画に対する指導・助言を行う。

評価結果の報告：WTT教員評価委員会で審議した結果をWTT人事協議会に報告する。

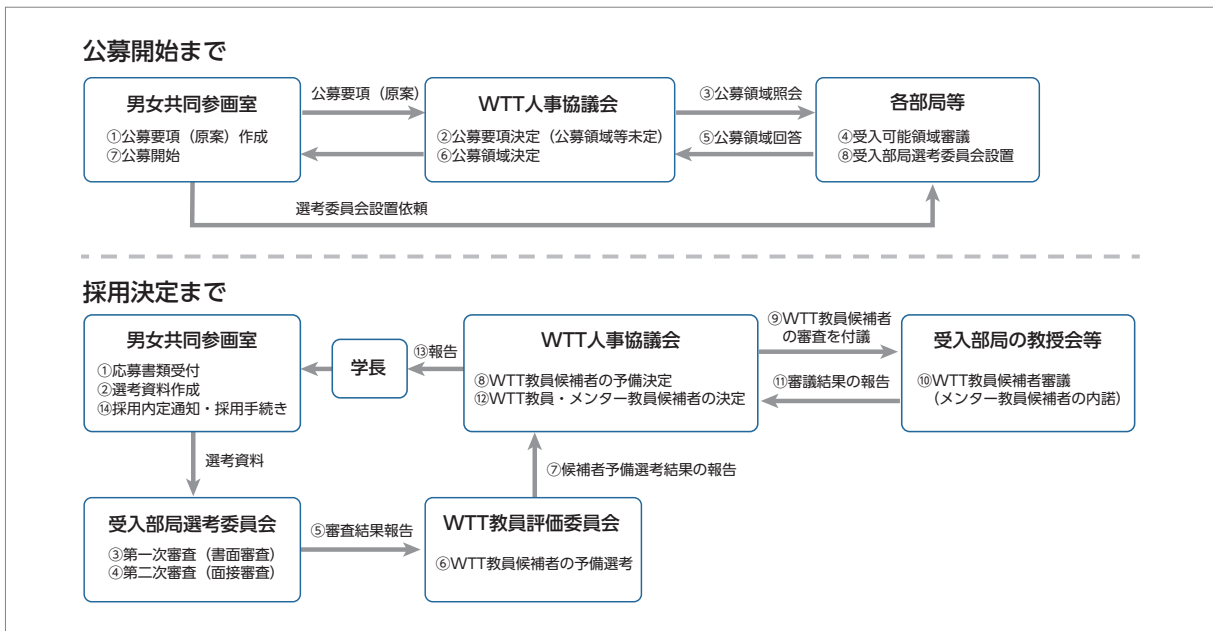
テニユア付与の審議：WTT人事協議会において、テニユア付与の可否について審議後、テニユア教員の受入部局教授会へテニユア審査を付議する。受入部局からテニユア審査結果の報告を受け、再度、WTT人事協議会において審議し、テニユア付与の可否を決定する。

テニユア付与可否の通知：決定したテニユア付与の結果をWTT教員及びメンター教員に通知する。

旧 令和元年度までの体制



WTT 教員選考組織図



WTT 制に関する手順

WTT制の実績

公募領域

WTT教員の公募について、募集する教育・研究領域に応じて公募要項を毎年作成し、教育・研究領域の詳細、応募資格、採用予定日、雇用条件、研究環境等の情報の他、採用審査基準及びテニユア審査基準を公開している。

平成22年度 (2010年度)	大学院自然科学系研究科 (大学院自然科学研究科、大学院環境学研究科、大学院医歯薬学総合研究科または大学院保健学研究科) ※平成22年度は研究科単位で公募
平成23年度 (2011年度)	大学院自然科学研究科 バイオサイエンス専攻 生物機能化学講座
	大学院自然科学研究科 バイオサイエンス専攻 植物機能開発学講座
	大学院自然科学研究科 バイオサイエンス専攻 動物機能開発学講座
	大学院環境学研究科 生命環境学専攻 環境生態学講座
平成24年度 (2012年度)	大学院保健学研究科 保健学専攻 検査技術科学分野
	大学院自然科学研究科 バイオサイエンス専攻 植物機能開発講座
	大学院自然科学研究科 バイオサイエンス専攻 動物機能開発講座
	大学院環境学研究科 社会基盤環境学専攻 農村環境創成学講座
平成25年度 (2013年度)	大学院医歯薬学総合研究科 創薬生命科学専攻 創薬科学講座または先端薬物療法開発学講座
	大学院自然科学研究科 化学生命工学専攻 生命工学講座
	大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻 都市環境創成学講座
平成26年度 (2014年度)	資源植物科学研究所 (環境生命科学研究科 農生命科学専攻 植物ストレス科学講座)
	大学院自然科学研究科 地球生命物質科学専攻 生物科学講座
平成27年度 (2015年度)	大学院自然科学研究科 地球生命物質科学専攻 地球システム科学講座
	大学院環境生命科学研究科 農生命科学専攻 生物機能化学講座
	大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻 人間生態学講座
平成28年度 (2016年度)	大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻 循環型社会形成学講座
	大学院社会文化科学研究科 比較社会文化学専攻 歴史文化論講座
平成29年度 (2017年度)	大学院社会文化科学研究科 社会文化学専攻 文化共生学講座
	大学院自然科学研究科 産業創成工学専攻 計算機科学講座
	大学院環境生命科学研究科 環境科学専攻 環境生態学講座
平成30年度 (2018年度)	大学院社会文化科学研究科 国際社会専攻 国際比較経済講座
令和元年度 (2019年度)	大学院社会文化科学研究科 社会文化学専攻 政策科学講座
令和2年度 (2020年度)	大学院自然科学研究科 数理物理科学専攻 物理科学講座
令和3年度 (2021年度)	資源植物科学研究所 植物ストレス科学共同研究コア 環境生物ストレスユニット

参考：理系 令和2年度 岡山大学「ウーマン・テニユア・トラック」教員公募要項

◆ 公募概要

国立大学法人岡山大学は、グローバルに展開する学術分野において、世界レベルの研究業績を生み出し、世界的な研究拠点として、知のコミュニケーション・センターの地位を達成することを目指しています。そのための事業の一つとして、質の高い女性教員の雇用促進・育成を目的とした「ウーマン・テニユア・トラック (WTT)」教員制を実施しています。WTT教員制は、WTT教員それぞれにメンター教員を配置し、また、必要に応じて研究支援者を採用するなど、ライフイベントに配慮したサポート体制を整えることで、女性教員が持てる資質・能力を教育・研究に遺憾なく発揮できるよう努めています。

本公募により採用されたWTT教員には、次世代を担う女性研究者として自立的に研究を進めて頂くとともに、WTT期間中（5年間）の研究及び教育業績に基づいた審査（テニユア審査）を経て、テニユア教員（常勤の教員）として採用されることとなります。

◆ 公募要領

1. 職 種：特別契約職員 助教（特任）
2. 所 属：大学院自然科学研究科
3. 教育・研究領域：

大学院自然科学研究科 数理物理学専攻 物理学講座 宇宙物理学

宇宙物理学、特に宇宙マイクロ波背景放射の実験、または、関連する観測装置の開発、データ解析等において優れた業績を有し、同分野、特にLiteBIRD計画において、石野宏和教授と意欲的に研究を行い、物理学に関する講義・演習・実験等を担当可能で心身共に健康な方。
4. 採用人数：1人
5. 応募資格：博士の学位取得後10年以内の女性研究者（令和2年3月31日までに学位取得見込みの者を含む）
6. 採用予定日：令和2年4月1日以降
7. 任期（WTT期間）：採用日から5年間
8. 雇用条件等：
 - 1) 給 与 等：月 額…30万円（通勤手当、住居手当等の諸手当を含む）
一時金…教員活動評価調書の成績を反映した一時金支給（年2回）
 - 2) 勤務形態：1日7時間45分、週38時間45分勤務（専門業務型裁量労働制）
 - 3) 福利厚生：文部科学省共済組合健康保険、雇用保険、労災保険適用
本学の職員宿舎、乳幼児保育施設、病児・病後児保育施設、学童保育施設等を利用可能
9. 研究環境：
 - 1) 1年目、2年目にスタートアップ資金を措置：100万円/年
 - 2) 共同利用研究施設に設置された70種以上の実験機器等を利用することが可能
10. テニユア教員への採用について：

WTT期間が満了する4月前までに実施するテニユア審査において、テニユア教員への採用基準に達していると評価された場合は、任期満了後に岡山大学テニユア教員に採用する。

なお、テニユア教員に採用後は、年俸制を適用する。

11. 提出書類：次のURLから入手可能
<https://okayama-u-diversity.jp/researcher-support/wtt/recruit>
 - 1) 履歴書
 - 2) 応募する教育・研究領域
 - 3) 応募の動機、将来の大学教員（教育者及び研究者）像について
 - 4) 研究計画
 - 5) 研究業績
 - 6) 教育業績及び教育に対する抱負
 - 7) 競争的資金獲得状況、申請状況及びWTT期間中の資金獲得予定
 - 8) 推薦書（1人～2人）
12. 書類提出先：〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 宛
※封筒表に朱書で「岡大WTT教員 応募」と明記
13. 提出方法：書留郵便にて送付のこと（応募書類は返却しません）
14. 受付期間：令和元年9月25日から令和元年10月31日まで【日本時間15時必着】
15. 選考スケジュール：
 - 1) 第一次審査（書類選考）：令和元年11月（予定）
 - 2) 第二次審査（面接、ヒアリング）：令和元年11月下旬～12月（予定）※論文等の別刷（著書の場合には表紙と該当ページ）を提出していただきます。
 - 3) 選考結果の通知：令和2年3月（予定）
16. 審査基準
 - 1) 採用審査基準（別紙1）
 - 2) テニユア審査基準（別紙2）
17. 問い合わせ先：岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
TEL：086-251-7011 FAX：086-251-7033 E-mail：sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

岡山大学WTT教員制度におけるテニユア審査の審査基準について

下記の内容に基づき、WTT任期中5年目にテニユア審査を実施する。(3年目には中間評価を実施。)

記

I. [1]～[6]についてはWTT教員が作成し、[7]～[9]についてはメンター教員が作成して提出すること。

- [1] 実施した研究について
- [2] 研究業績について
- [3] 教育業績について
- [4] 競争的研究資金への応募実績、資金の受け入れ状況について
- [5] 期間中における特記事項（受賞、表彰等）
- [6] 総合評価（自己評価）について
- [7] WTT教員期間中の簡単なメンタリングの経過報告書及び研究、教育、研究資金などに関する評価
- [8] WTT教員に関する特記事項など
- [9] その他、大学教員、一般社会人としての行動規範遵守など

II. テニユア審査基準はWTT教員が所属する部局の基準に準ずる。なお、以下の基準を参考にするものとする。

- [1] 研究論文、学会発表について
 - * 第一著者で、最終評価までに少なくとも2編あることが望ましい（研究内容は、WTT教員期間のものが中心）。
 - * 平均年1編の論文（共著も含む）が公刊されていることが望ましい。
 - * 学会などにおける発表は、平均年1回はあることが望ましい。
 - * 国際会議、シンポジウムなどへの参加が望ましい。
 - * 海外派遣助成金などへの積極的応募が望ましい。
- [2] 研究費について
 - * 積極的に外部資金（科学研究費など及び財団などの研究費）に応募し、WTT教員期間中に少なくとも1回は研究代表者として外部資金獲得があることが望ましい。

以上

参考：文系 平成31年度 岡山大学「ウーマン・テニユア・トラック」教員公募要項

◆ 公募概要

国立大学法人岡山大学は、グローバルに展開する学術分野において世界レベルの研究業績を生み出し、世界的な研究拠点として、知のコミュニケーション・センターの地位を達成することを目指しています。そのための事業の一つとして、質の高い女性教員の雇用促進・育成を目的とした「ウーマン・テニユア・トラック (WTT)」教員制を実施しています。WTT教員制は、WTT教員それぞれにメンター教員を配置し、また、必要に応じて研究支援者を採用するなど、ライフイベントに配慮したサポート体制を整えることで、女性教員が持てる資質・能力を教育・研究に遺憾なく発揮できるよう努めています。

本公募により採用されたWTT教員には、次世代を担う女性研究者として自立的に研究を進めて頂くとともに、WTT期間中（5年間）の研究及び教育業績に基づいた審査（テニユア審査）を経て、テニユア教員（常勤の教員）として採用されることとなります。

◆ 公募要領

1. 職 種：特別契約職員 助教（特任）
2. 所 属：大学院社会文化科学研究科
3. 教育・研究領域：

大学院社会文化科学研究科 社会文化学専攻 政策科学講座 政治過程論

現代日本政治を主な対象とする政治過程論研究（政治制度、選挙、政策、政党政治など）で優れた研究能力を有し、岡山大学大学院社会文化科学研究科・法学部において日本政治や政治過程論に関する講義・演習を担当することが可能で、学生の教育・研究指導や国際研究交流に熱意を持って取り組める方。英語による授業担当ができれば望ましい。なお、日本語を母語としない者の場合も業務に支障のない程度の日本語能力があることが強く望まれる。

4. 採用人数：1人
5. 応募資格：博士の学位取得後10年以内（平成31年3月31日までに学位取得見込みの者を含む）もしくは、博士相当の業績（単著論文3本以上）のある女性研究者
6. 採用予定日：平成31年4月1日
7. 任期（WTT期間）：平成31年4月1日から令和6年3月31日まで
8. 雇用条件等：
 - 1) 給 与 等：月額30万円（諸手当を含む）、成績を反映した一時金支給（予算の範囲内）
 - 2) 勤務形態：1日7時間45分、週38時間45分勤務（専門業務型裁量労働制）
 - 3) 福利厚生：文部科学省共済組合健康保険、雇用保険、労災保険適用
 本学の職員宿舍、乳幼児保育施設、病児・病後児保育施設、学童保育施設等を利用可能
9. 研究環境：
 - 1) 1年目、2年目にスタートアップ資金を措置
10. テニユア教員への採用について：

WTT期間が満了する4月前までに実施するテニユア審査において、テニユア教員への採用基準に達していると評価された場合は、令和6年4月1日付けで岡山大学テニユア教員に採用する。ただし3年目の中間評価において、すでにテニユア審査基準を満たしていると認められた場合には、テニユア審査を実施し、テニユア教員に採用することがある。

11. 提出書類：次のURLから入手可能

<http://www.okayama-u-diversity.jp/researcher-support/wtt/recruit>

- 1) 履歴書
- 2) 応募する教育・研究領域
- 3) 応募の動機、将来の大学教員（教育者及び研究者）像について
- 4) 研究計画
- 5) 研究業績
- 6) 教育業績及び教育に対する抱負
- 7) 競争的資金獲得状況、申請状況及びWTT期間中の資金獲得予定
- 8) 推薦書（1人）

12. 書類提出先：〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室 宛

※封筒表に朱書で「岡大WTT教員 応募」と明記

13. 提出方法：書留郵便にて郵送のこと（応募書類は返却しません）

14. 受付期間：平成30年4月13日から平成30年6月13日まで【日本時間15時必着】

15. 選考スケジュール：

1) 第一次審査（書類選考）：平成30年7月（予定）

2) 第二次審査（面接、ヒアリング）：平成30年8月（予定）

※主要業績3本までの別刷（著書の場合には表紙と該当ページ）を提出していただきます。

3) 選考結果の通知：平成30年11月（予定）

16. 審査基準

1) 採用審査基準（別紙1）

2) テニユア審査基準（別紙2）

17. 問い合わせ先：岡山大学ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

TEL：086-251-7011 FAX：086-251-7033 E-mai：sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

採用審査基準

第一次審査（書類審査）における評価項目

[I] WTT教員として行う予定の研究提案について

- (1) 提案の目的と内容説明
他分野の研究者にも十分説得力をもつように記述されているか。
- (2) 提案の独創性と新規性及び国内外における位置づけ
本提案の独創的な点、新規性が明確に説明されているか。類似研究との違いが明確で、優位性が認められる研究であるか。
- (3) 本提案の学術的・社会的な重要性
本提案の研究目的が達成されると、学術的にどのような波及効果が期待できるか。
- (4) 研究計画及び計画の実現性
本提案の実行計画は合理的で実際に実現可能なものであるか。特に、テニユア審査の時点での実現が期待されるか。他大学や海外の大学との共同研究の可能性があるか。

[II] これまでの研究業績について

- (1) 過去の業績説明
他分野の研究者にも十分説得力をもつように記述されているか。
- (2) 研究業績リスト
既発表論文の量と質は十分であるか。

[III] これまでの教育業績、教育に対する抱負について

- (1) 教育に関する経歴（学部・大学院の別、授業科目名及び単位数、講義・演習・実験・実習の別、講義等の内容、教育上の観点から特に留意した効果的・先進的な実践事項・事例）及び教育に対する抱負等から、大学教員としての資質は十分と判断されるか。
- (2) 日本政治に関する講義・演習及び大学院生の研究指導が十分に可能か。
- (3) 英語による講義や大学院生の研究指導が可能か。
- (4) 日本政治以外についてどのような講義・演習が可能か。

[IV] 競争的研究資金について

- (1) WTT教員として研究を進めるための研究資金を競争的資金から独自に獲得することが期待できるか。
- (2) 科学研究費等の研究資金獲得のための申請書作成能力は十分にあると考えられるか。

[V] 推薦書

- (1) 当該研究者の研究立案能力及び研究推進能力は評価に値するものであるか。大学教員としての将来は期待できるか。

第二次審査（面接、ヒアリング）における評価項目

- (1) 第一次審査の評価結果及び提出書類に関する質疑応答
- (2) 面接における質疑応答、研究内容に関するプレゼンテーションと教育に関する業績、抱負及びそれに対する質疑応答
- (3) コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力
自分の考え、主張を明確に表現でき、説明できるか。学生の教育にも支障はないか。
研究内容を他分野の研究者、専門外の者にもわかりやすく説明できるか。

岡山大学WTT教員制度におけるテニユア審査の審査基準について

テニユア審査は、下記の内容に基づき実施する。

記

I. [1] ～ [6] についてはWTT教員が作成し、[7] ～ [10] についてはメンター教員が作成して提出すること。

- [1] 実施した研究について
- [2] 研究業績について
- [3] 教育実績について
- [4] 競争的研究資金への応募実績、資金の受け入れ状況について
- [5] 期間中における特記事項（受賞、表彰等）
- [6] 総合評価（自己評価）について
- [7] WTT教員期間中の簡単なメンタリングの経過報告書及び研究、教育、研究資金などに関する評価
- [8] 法学部及び社会文化科学研究科での運営面での貢献
- [9] その他、大学教員、一般社会人としての行動規範遵守など
- [10] WTT教員に関する特記事項など

II. テニユア審査基準はWTT教員が所属する部局の基準に準ずる。なお、以下の基準を参考にするものとする。

- [1] 教育及び学部・大学院運営について
 - *各年度において、学部・大学院あわせて4～5単位程度の講義を担当していることが望ましい。
 - *各年度において、1以上の委員を務めていることが望ましい。
- [2] 研究論文、学会発表について
 - *独創性の高い原著論文がWTT教員としての採用以降最終評価までに3編以上あることが望ましい。掲載決定済みのももこれに含むことができる。
 - *学会や他大学との研究交流などにおける発表を積極的に行うことが望ましい。
 - *WTT教員としての採用以降、最終評価までに独創性の高い原著論文数と学会報告の回数が併せて3以上であることが望ましい。
 - *国際会議、シンポジウムなどへの参加を積極的に行っていることが望ましい。
 - *海外派遣助成金などへの積極的応募が望ましい。
- [3] 研究費について
 - *積極的に外部資金（科学研究費及び財団などの研究費）に応募し、WTT教員期間中に研究代表者として外部資金獲得があることが望ましい。

以上

採用実績

◆ WTT 教員の採用

平成22年度から令和2年度までの11年間で26人（内：外国籍4人）、年平均2.4人を採用している。今後も最低1人／年の採用を継続していく予定である。

◆ WTT 教員採用実績人数

採用年度	WTT 教員採用実績 (内：外国籍)	
		内：テニユア取得済 (内：外国籍)
平成22年度（2010年度）	4	4
平成23年度（2011年度）	3	3
平成24年度（2012年度）	4	4
平成25年度（2013年度）	3	3
平成26年度（2014年度）	2	2
平成27年度（2015年度）	3	2
平成28年度（2016年度）	1	1
平成29年度（2017年度）	3 (1)	1 (1)
平成30年度（2018年度）	1 (1)	
令和元年度（2019年度）	1 (1)	
令和2年度（2020年度）	1 (1)	
合 計	26 (4)	20 (1)

◆ テニユア取得後の現在の職階（令和2年10月1日現在）

テニユア後の職階	教授	准教授	講師	助教
人数（内：外国籍）	1	12 (1)	1	6

教員紹介

◆ 第 I 期 WTT 教員（平成 22 年度採用）

氏名	江口 律子 エグチ リツコ
所属／職名	異分野基礎科学研究所 超伝導・機能材料研究コア 軽元素超伝導・エレクトロニクス研究分野 / 助教
最終学歴	東京大学大学院工学系研究科 博士後期課程修了
前職	日本学術振興会特別研究員 (PD)
研究内容	金属-絶縁体相転移や超伝導など興味深い物性を示す強相関酸化物や有機物質の電子状態について、放射光などを利用した様々な分光学的実験手法を用いて研究を行っています。また酸化物や有機薄膜などの試料作製やその物性についても調べています。その基礎物性をもとにして将来的に応用に活かせるような研究を目指しています。

氏名	御輿 真穂 オゴシ マホ
所属／職名	大学院自然科学研究科 (理) 地球生命物質科学専攻 生物科学講座 / 助教
最終学歴	東京大学大学院理学系研究科 博士後期課程修了
前職	日本学術振興会特別研究員 (PD)
研究内容	脊椎動物のホルモンと生理学について、主に魚を材料に研究しています。今後は両生類から哺乳類まで、さまざまな動物のゲノム情報を利用することで、新しいホルモンや機能の発見を目指したいと思っています。

氏名	三谷 奈見季 ミタニ ナミキ
所属／職名	資源植物科学研究所 土壌環境ストレスユニット 植物ストレス学グループ / 准教授
最終学歴	岡山大学大学院自然科学研究科 博士後期課程修了
前職	岡山大学資源植物科学研究所 / 特別契約職員助教
研究内容	植物のストレスを軽減する元素「ケイ素」は、ケイ酸輸送体タンパク質によって植物体内へと取り込まれます。私はこのケイ酸輸送体の発現制御機構の解明を目的に研究活動を行っています。

氏名	西村 美保 ニシムラ ミホ
所属／職名	異分野基礎科学研究所 光合成・構造生物学研究コア 機能解析研究分野 / 助教
最終学歴	岡山大学大学院自然科学研究科 博士後期課程修了
前職	日本学術振興会特別研究員DC2
研究内容	植物を研究対象にしています。植物にダメージを与える強い日差しや真冬の低温などを環境ストレスと呼びますが、植物は一年中何らかの環境ストレスにさらされていて、温暖化による気温の上昇も深刻な問題です。植物の光合成機構に注目し、環境ストレスが植物に与える影響と、植物が環境の変化に適應するために備えている仕組みについて明らかにしていきます。

◆ 第Ⅱ期WTT教員（平成23年度採用）

氏名	飯尾 友愛 イイオ トモエ
所属／職名	大学院保健学研究科 検査技術科学分野 生体情報科学領域 / 助教 ※令和2年12月31日退職
最終学歴	岡山大学大学院保健学研究科 博士課程修了
前職	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 産科婦人科教室 / 臨床検査技師
研究内容	アロマセラピー（芳香療法）による作用・効果をマウス気管支喘息モデルで研究しています。様々な精油の作用を科学的に実証し、アロマセラピーによるヘルスプロモーションを提案していきます。

氏名	前田 恵 マエダ メグミ
所属／職名	大学院環境生命科学研究科（農）生物資源科学専攻 生物機能化学講座 / 准教授
最終学歴	岡山大学大学院自然科学研究科 博士後期課程修了
前職	川崎医科大学衛生学 / 助教
研究内容	植物タンパク質に結合している糖鎖抗原性糖鎖は、スギ花粉症においてTh2型の免疫応答を抑制する活性を示すため、抗アレルギー薬のリード化合物となる可能性が考えられています。植物抗原性糖鎖を多数結合させた人工糖鎖ポリマーを作成し、そのメカニズム解明を進めています。

氏名	宮崎 祐子 ミヤザキ ユウコ
所属／職名	大学院環境生命科学研究科（農）生命環境学専攻 環境生態学講座 / 准教授
最終学歴	北海道大学大学院農学研究科 博士課程中途退学（中途退学後、博士号取得）
前職	北海道大学大学院地球環境科学研究院 / 博士研究員
研究内容	植物の開花・結実（繁殖）は次世代への更新を担う重要な過程です。固着性である植物が、変動する野外環境下で資源をどのように得て、生活史の中で特に繁殖に対してどのように利用しているかについて研究を行っています。さらに、開花・結実の後の過程である実生更新の仕組みや、繁殖・実生更新の過程が地球規模で進む環境変化の影響をどのように受けるかについて、野外調査、植物の栽培実験、室内実験などにより研究を進めています。

◆ 第Ⅲ期WTT教員（平成24年度採用）

氏名	日浅 未来 ヒアサ ミキ
所属/職名	大学院医歯薬学総合研究科（薬）創薬科学領域 生体膜生理化学研究室 / 講師
最終学歴	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 博士後期課程修了
前職	徳島文理大学薬学部 / 助教
研究内容	わたしたちの生物の生体内では様々な物質を取り入れ、循環させ、多彩な生理作用を発揮し、最後には排出しています。この生体内で行われている物流イベントを司るのがトランスポーターと呼ばれるタンパク質であり、薬理学分野や神経科学分野などの各分野で重要な研究ターゲットとなっています。私はトランスポーターが関わる多彩な生理作用の解明を目的に研究しています。
氏名	本田 恭子 ホンダ ヤスコ
所属/職名	大学院環境生命科学研究所（環）社会基盤環境学専攻 農村環境創成学講座 / 准教授
最終学歴	京都大学大学院農学研究科 博士後期課程修了
前職	京都府立農業大学校 / 非常勤講師
研究内容	農地や水路、ため池といった地域の資源は、これまで農村コミュニティによって守られてきました。しかし、第1次産業の衰退と深刻な人口減少によりこれらの資源は利用されなくなってきました。地域資源が荒廃することは、景観や生態系の保全や防災の観点から私たちの社会にとって大きな損失です。そこで私は、地域資源とこれを支える農村コミュニティの現状を調べるとともに、地域資源が将来にわたり活用され守られるような農村社会のあり方について検討しています。
氏名	門田 有希 モンデン ユキ
所属/職名	大学院環境生命科学研究所（農）生物生産科学専攻 植物機能開発学講座 / 准教授
最終学歴	京都大学大学院農学研究科 博士課程修了
前職	日本学術振興会特別研究員（DC1）
研究内容	さまざまな農作物（サツマイモ、イチゴなど）の育種・遺伝学的な研究を行っています。より良い品種（病気に強い、収量アップなど）を作るため、畑での栽培から実験、コンピューターを使った解析まで幅広く取り組んでいます。また、作られた大切な品種を守るための技術も開発しています。

◆ 第V期WTT教員（平成26年度採用）

氏名	井上 麻夕里 イノウエ マユリ
所属／職名	大学院自然科学研究科（理）地球生命物質科学専攻 地球システム科学講座 / 教授
最終学歴	東北大学大学院理学研究科 博士後期課程修了
前職	東京大学大気海洋研究所 / 助教
研究内容	近年、環境変動に関する問題が懸念されていますが、そもそも地球の環境は変化するものです。それがどのように変化してきたのか、主にサンゴ試料と地球化学的手法を用いて、過去の海水温などの環境変動について研究を行っています。
氏名	相澤 清香 アイザワ サヤカ
所属／職名	大学院自然科学研究科（理）地球生命物質科学専攻 生物科学講座 / 准教授
最終学歴	埼玉大学大学院理工学研究科 博士後期課程修了
前職	大阪大学微生物病研究所 / 研究員
研究内容	哺乳類の内分泌系による生体制御機構について研究しています。特にマウスやラットを用いて、下垂体ホルモンの光周期による制御と、摂食や代謝などの生物リズムの形成メカニズムの解明を目指しています。

◆ 第VI期WTT教員（平成27年度採用）

氏名	根本 理子 ネモト ミチコ
所属／職名	大学院環境生命科学研究科（農）生物資源科学専攻 生物機能化学講座 / 助教
最終学歴	東京農工大学大学院工学府 博士後期課程修了
前職	(独) 国立病院機構 名古屋医療センター / 流動研究員
研究内容	生物が形成する鉱物はバイオミネラルと呼ばれます。バイオミネラルは、人工合成困難な構造、組成を持ち、様々な優れた性質を示す機能性材料です。バイオミネラルの形成機構解明は、材料科学およびナノテクノロジー分野の発展に貢献することが期待されます。私は遺伝子・タンパク質の網羅的解析手法をベースに、バイオミネラル形成機構の解明を目指した研究を行っています。
氏名	小布施 祈織 オブセ キオリ
所属／職名	大学院環境生命科学研究科（環）生命環境学専攻 人間生態学講座 / 准教授
最終学歴	京都大学大学院理学研究科 博士課程修了
前職	東北大学原子分子材料科学高等研究機構 / 助教
研究内容	自然現象にかかわる諸問題を数理的な立場から理解することを目標に、研究を行っています。たとえば、惑星大気運動の数理モデルとして最も基本的な回転球面上2次元乱流における帯状構造の形成メカニズムを、基礎方程式の解の性質の議論を通して明らかにすることを目指しています。また、生物の体内外における構造形成の数理モデリングにも取り組んでいます。

氏名	田村 生弥 タムラ イクミ
所属／職名	大学院環境生命科学研究所 (環) 資源循環学専攻 持続可能社会形成学講座 / 助教 (特任) ※令和2年3月31日 他機関へ転出
最終学歴	徳島大学大学院総合科学教育部 博士課程修了
前職	独立行政法人国立環境研究所環境リスク研究推進室 / 特別研究員
研究内容	私たちは日常的に医薬品、化粧品、洗剤などを使用しています。これらに含まれる化学物質は環境中に出て、悪影響を与える可能性があります。私はこのような物質が環境中でどこに行き、どのように変化し、生物などにどのような影響を与えるかを知るため、分解性試験や環境中濃度モニタリング、バイオアッセイなどを用いた環境動態や生態リスクの研究を行っています。

◆ 第Ⅶ期WTT教員 (平成28年度採用)

氏名	和田 郁子 ワダ イクコ
所属／職名	大学院社会文化科学研究科 (文) 比較社会文化学専攻 歴史文化論講座 / 准教授
最終学歴	京都大学大学院文学研究科 博士課程修了
前職	京都大学白眉センター / 特定助教
研究内容	17-18世紀の南アジア、とくに南インド東部コロマンデル海岸の港町とデカン地方を含むその周辺地域の歴史について、海と陸の連関の視角から研究しています。多様な人々の活動の舞台となった港町を中心に、彼らの残した様々な史料の分析を進め、人々の移動と接触に伴って形成されたコスモポリタンな社会の諸相を明らかにすることを目指しています。

◆ 第Ⅷ期WTT教員 (平成29年度採用)

氏名	袴田 玲 ハカマダ レイ
所属／職名	大学院社会文化科学研究科 (文) 社会文化学専攻 (倫理学) / 助教 (特任)
最終学歴	東京大学大学院人文社会系研究科 博士課程修了
前職	日本学術振興会特別研究員 (PD)
研究内容	キリスト教思想、とくに東欧やスラヴ・バルカン諸国などで今も熱心に信仰されている東方キリスト教のルーツであるビザンツ帝国時代のキリスト教思想について研究してきました。今後はラテン世界との比較を通じて視野を広げつつ、人間の生死についての問いかけや人々が共に生きるための知恵など、現代の私たちにとっても重要な諸問題について古の人々がどのように思索してきたのかを明らかにしていきたいと思っています。

氏名	東口 阿希子 ヒガシグチ アキコ
所属/職名	大学院環境生命科学研究所 (農) 生命環境学専攻 環境生態学講座 / 助教 (特任)
最終学歴	京都大学大学院農学研究科 博士後期課程修了
前職	京都大学地球環境学堂 / 教務補佐員
研究内容	野生動物による農林業や生活環境への被害が、中山間地域を中心に全国的な課題となっています。生産活動のみならず集落の存続までも脅かすこの被害を解決し、資源の管理や利用を通じて利益をも生み出すような持続的な方策を見出すことを目指して、社会科学的観点から研究を行っています。

氏名	YUCEL ZEYNEP ユジヤイ ゼイネップ
所属/職名	大学院自然科学研究所 (工) 産業創成工学専攻 計算機科学講座 / 准教授
最終学歴	PhD in Electrical and Electronics Engineering from Bilkent University, Ankara, Turkey
前職	JSPS Fellow at ATR International, Kyoto
研究内容	My research interest is artificial intelligence with applications in robotics. I am particularly interested in modelling of human behaviour (1) for designing robotic systems which communicate with humans in a more natural way and (2) for replicating human-like learning patterns in robotic agents. In particular, I study on joint attention modelling, head pose and gaze direction estimation; and motion tracking and pedestrian group motion modelling.

◆ 第Ⅸ期WTT教員 (平成30年度採用)

氏名	金 志映 キム ジヨン
所属/職名	大学院社会文化科学研究科 (経) 国際社会専攻 比較経済講座 / 助教 (特任)
最終学歴	慶應義塾大学経済学研究科 博士課程修了
前職	独) 日本貿易振興機構 (JETRO) アジア経済研究所 新領域研究センター グローバル・バリュー・チェーン研究グループ / 研究員
研究内容	専門分野は計量経済学・経済統計で、実物的側面と金融的側面の両方から経済を捉える研究を行っています。具体的には、一国のモノの流れを捉える産業連関表やお金の流れを捉える資金循環表などの経済統計を用いて、新しい分析方法の開発をはじめ、資料が不十分で研究事例が乏しかった途上国のケーススタディーや国際間の取引表の試作などを試みてきました。将来的には経済の実物的側面と金融的側面を統合するようなモデルの開発を目指しております。

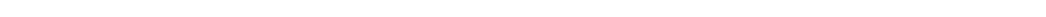
◆ 第X期WTT教員（平成31年度採用）

氏名	朴 志善 パク ジソン
所属/職名	大学院社会文化科学研究科(法) 社会文化学専攻 政策科学講座 / 助教(特任)
最終学歴	東京大学大学院法学政治学研究科 博士課程修了
前職	駐日本国大韓民国大使館 / 主任研究員
研究内容	代議制民主主義における政府はいかに人々を代表し、責任性のある統治を行うかについて、現代日本と韓国の政党を中心に研究しています。

◆ 第XI期WTT教員（令和2年度採用）

氏名	Steve Samantha Lynn スティーバー サマンサ リン
所属/職名	大学院自然科学研究科(理) 数理物理学専攻 物理科学講座 / 助教(特任)
最終学歴	PhD at Institut d'Astrophysique Spatiale (Institute for Space Astrophysics) and Laboratoire de l'accélérateur linéaire (Linear Accelerator Laboratory) at University Paris-Saclay in Paris, France.
前職	Postdoctoral Fellow at Kavli Institute for the Physics and Mathematics of the Universe (IPMU), the University of Tokyo
研究内容	<p>I work in the field of instrumentation and instrument science for cosmology and X-ray space missions, especially on the upcoming JAXA-led space mission LiteBIRD. LiteBIRD seeks to measure cosmological B-modes, which would give historical evidence towards cosmic inflation. In order to achieve this, LiteBIRD must be able to measure a very tiny signal and have precise control and mastery over systematic effects. I am mainly working on the interaction between radiation (cosmic rays) and highly-sensitive sub-Kelvin detectors, as well as the thermal effects affecting the telescope focal plane from charged particle impacts.</p> <p>I also plan to apply my knowledge of detection systems to experimental efforts towards astroparticle physics experiments (dark matter detection and/or neutrino measurements), as well as understanding of other systematic effects facing the next generation of space, balloon, and ground-based telescopes.</p>

イベント等実施報告



イベント実施報告

WTT 教員研究発表会

平成24年度から「WTT 教員研究発表会」を開催。研究発表会は、WTT 教員が幅広い対象に対して分かりやすく研究内容の紹介を行い、優秀な女性教員増加に向け、WTT 制を学内外に発信するために実施してきた。

開催日	開催場所	発表人数
平成24年12月21日	本部棟6階第一会議室	6人
平成25年12月25日	創立五十周年記念館2階 会議室	10人
平成26年12月3日	創立五十周年記念館2階 会議室	5人

女性研究者シーズ発信会

平成27年度から学外有識者をコメンテーターとして招き、「女性研究者シーズ発信会」に名称を変更して開催し、これまで以上に有益なシーズ発信および意見交換を実施することができた。異なる研究分野のシーズ発信を行うことにより、新たな発見が生まれ、共同研究へ発展している事例がある。

開催日	開催場所	発表人数
平成27年12月18日	創立五十周年記念館2階 会議室	8人
平成28年12月20日	創立五十周年記念館2階 会議室	6人
平成29年12月19日	創立五十周年記念館2階 会議室	6人
平成30年12月4日	創立五十周年記念館2階 会議室	2人*
令和2年11月30日	創立五十周年記念館2階 会議室	5人

※研究推進産学官連携機構と共催

参考資料 平成24～30年度開催ポスター

平成24年度

ウーマン・テニュア・トラック教員 研究発表会

日時
平成24年
12月21日(金)
13:00
16:30

場所
岡山大学本部棟6階
第一会議室

岡山大学では、ウーマン・テニュア・トラック(WTT)教員制を平成21年度よりスタートさせ、優秀な若手研究者の確保と育成およびダイバーシティ推進における女性教員の増加を目指しています。また、平成23年度にはWTT教員制が文部科学省科学技術人材育成奨励金「テニュア・トラック普及・定員事業」に採択され、本学ではさらなる制度の充実と発展に向けた取り組みも展開しています。

研究発表会では、WTT教員として活躍する第II期2名および第III期4名の若手女性教員が、最先端の研究成果をお互いやすく紹介し、多くの方々の参加をお待ちしています。

13:00～ 開会の挨拶 沖 陽子(男女共同参画室 室長/大学院環境生命科学研究所 教授)

13:10～ 研究発表

- ① 飯尾 友愛(大学院保健学研究科)
「マウス喘息モデルによる精油の抗アレルギー作用機序の解明」
- ② 宮崎 祐子(大学院環境生命科学研究所)
「環境の変化が木の樹木の開花・結実様式を変える」
- ③ 山本 ゆき(大学院環境生命科学研究所)
「哺乳動物における卵管の生理機能：3次元細胞培養法による解析」
～休憩(15:40-16:00)～
- ④ 門田 有希(大学院環境生命科学研究所)
「大規模ゲノム解析を利用した、先史がリビア人による黒米サツマイモのオセアニア拡散への伝播解明」
- ⑤ 本田 恭子(大学院環境生命科学研究所)
「市民コモンズとしての地域資源管理の構築を目指して」
- ⑥ 日浅 未来(大学院医歯薬学総合研究科)
「プリン作用性化学伝達分子メカニズム解明：血小板におけるVNUT関与と機能」

16:30～ 閉会の挨拶 富岡 憲治(男女共同参画室 副室長/大学院自然科学研究科 教授)

対象 教職員・大学院生・学生・一般

申込方法 準備の都合上、事前申込にご協力をお願いします。
無料招待券を希望される場合は、12月18日(金)までに申込ください。

申込・問い合わせ先 国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号 TEL 086-251-7011
E-mail sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
URL http://www.okayama-u.ac.jp/user/injdiversity/danjo

文部科学省 科学技術人材育成費補助法「テニョア」の普及・定着事業

平成25年度

ウーマン・テニョア・トラック教員 研究発表会

日時
平成25年
12月25日
10:00-15:40

場所
創立50周年記念館
2階 会議室

岡山大学では、ウーマン・テニョア・トラック(WTT)教員制を平成21年度よりスタートさせ、優秀な若手研究者の確保と育成およびダイバーシティ推進における女性教員の増加を目指しています。また、平成23年度から3年経って文部科学省の「テニョア」の普及・定着事業」に採択され、更なる制度の充実と発展に向けた取り組みも展開しています。

研究発表会では、WTT教員として活躍している6名と既にテニョアを取得した4名の若手女性研究者が最先端の研究発表を行います。

10:00	開会の挨拶		
10:10-10:30	WTT教員	門田 有希	大学院環境生命科学研究科(農)
10:30-10:50	WTT教員	山本 ゆき	大学院環境生命科学研究科(農)
10:50-11:10	WTT教員	日浅 未来	大学院医薬薬学総合研究科(薬)
11:10-11:30	WTT教員	増田 潤子	大学院自然科学研究科(工)
11:30-11:50	WTT教員	本田 恭子	大学院環境生命科学研究科(農)
11:50-12:10	WTT教員	齋藤 光代	大学院環境生命科学研究科(農)
12:10-13:30	休憩		
13:40-14:10	テニョア教員	江口 律子	大学院自然科学研究科(理)
14:10-14:40	テニョア教員	御輿 真穂	大学院自然科学研究科(理)
14:40-15:10	テニョア教員	西村 美保	大学院自然科学研究科(理)
15:10-15:40	テニョア教員	三谷 奈見季	資源植物科学研究所
15:40	閉会の挨拶		

*発表の順番、発表時間は変更になる可能性があります。

対象 教職員・大学院生・学生・一般

申込方法 準備の都合上、事前申込にご協力をお願いします。
無利権者も希望される場合は、12月13日(金)までに申込ください。

申込・問い合わせ先 国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号 ☎086-251-7011
✉ sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
🌐 <http://www.okayama-u.ac.jp/user/inj/iversity/danjo>



文部科学省 科学技術人材育成費補助金 ティンユアトラック普及・定数事業

平成26年度

WTT 教員 研究発表会

Woman Tenure Track

平成26年12/3(水) 13:00~16:00
創立50周年記念館 2階会議室

プログラム

13:00

開会の挨拶

13:10~13:40

がん細胞における全身免疫能への影響

増田 眞子(WTT教員) 大学院自然科学研究科(工)

13:40~14:10

**淡水の輸送が駆動する“物質循環-生態系相互作用”の解明
-陸-海を含む流域スケールでの試み-**

栗藤 光代(WTT教員) 大学院環境生命科学研究所(農)

14:10~14:40

植物におけるトランスポゾン制御機構の解析

池田 陽子(WTT教員) 資源植物科学研究所

14:40~14:50

休憩

14:50~15:20

造礁サンゴの骨格成長へ及ぼす海洋酸性化の影響評価

井上 麻夕里(WTT教員) 大学院自然科学研究科(理)

15:20~16:00

花粉アレルゲン結合糖鎖による免疫調節活性の解析

前田 恵(ティンユア教員) 大学院環境生命科学研究所(農)

16:00

閉会の挨拶

準備の都合上、事前申し込みをお願いします。無料託児を希望される場合は、11月25日(火)までに申し込みください。

お問い合わせ・お申し込み: 国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号

[TEL] 086-251-7011 [E-mail] sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

[URL] <http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo>



文部科学省「科学技術人材育成費補助金」フェニックス普及・定着事業

2015年度 女性研究者シーズ発信会 (ウーマン・テニュア・トラック教員研究発表会)

2015.12.18.Fri 13:00～17:00
創立50周年記念館 2階会議室

Program

- | | |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>13:00
開会挨拶
阿部 宏史 理事 / 国立大学法人岡山大学</p> <p>13:10
汽水域における微量汚染物質の
毒性影響評価
田村 生勢 (第V期WTT教員) / 大学院環境生命科学研究所 (環)</p> <p>13:35
回転球面上2次元Navier-Stokes乱流
における大規模構造の形成
小西 隆 初編 (第V期WTT教員) / 大学院環境生命科学研究所 (環)</p> <p>14:00
エクソーム解析による
先天性免疫不全症の原因遺伝子の同定
櫻本 理子 (第V期WTT教員) / 大学院環境生命科学研究所 (環)</p> <p>14:35
化石サンゴを用いた5200年前の
西太平洋熱帯域の気候変動復元
井上 麻夕星 (第V期WTT教員) / 大学院自然科学研究所 (理)</p> | <p>15:00
下垂体隆起部の細胞生物学的研究
相澤 清香 (第V期WTT教員) / 大学院自然科学研究所 (理)</p> <p>15:25
卵管運動をコントロールする
局所因子とその産生制御
山本 玲香 (フェニックス教員) / 大学院環境生命科学研究所 (環)</p> <p>16:00
高速シーケンサを利用した
農作物の遺伝解析
門田 有希 (フェニックス教員) / 大学院環境生命科学研究所 (環)</p> <p>16:25
森林に生育する樹木の繁殖の
豊凶を決める要因は何か?
:花成制御遺伝子発現量から探る
生理メカニズム
宮崎 祐子 (フェニックス教員) / 大学院環境生命科学研究所 (環)</p> <p>16:50
閉会挨拶</p> |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

コメンテーター	林 祥介 教授 / 神戸大学環境科学センター 奥本 裕 教授 / 京都大学大学院農学研究所	川向 誠 教授 / 鳥取大学生物資源科学部生命工学科 三井 斌友 名誉教授 / 名古屋大学
---------	--------------------------------------------------	--------------------------------------------------

※主催の都合上、事前申し込みをお願いします。無料配布を希望される場合は、12月1日(火)までにお申し込みください。

お問い合わせ・お申し込み：国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部男女共同参画室
 〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
 TEL: 086-251-7011 [E-mail] sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
 URL: <http://www.okayama-u.ac.jp/user/jinji/diversity/danjo>
 共催：研究推進産学官連携機構



文部科学省 科学技術人材育成費補助金 テニユアトラック普及・定着事業

2016年度

女性研究者シーズ発信会

(ウーマン・テニユア・トラック教員研究発表会)

平成28年12月20日(火) 13:00~16:30

岡山大学創立五十周年記念館2階会議室

対象

教職員・大学院生・学生・関係機関・一般

コメンテーター

重松 伸司 所長 / 専門学院大学オーストラリア・アジア研究所
 小野寺 真一 教授 / 広島大学大学院総合科学研究科
 篠原 康雄 教授 / 徳島大学乳癌幹細胞学研究所

プログラム

13:00 開会挨拶

13:10~14:35 発表会 I

17世紀南インドにおける海港市と広域社会

和田 穂子 (第VIII期WTT教員) / 大学院社会文化科学研究科 (文)

市民commonsとしての地域資源管理をめざして—土地化地域における農業用水路管理の一断面—

本田 基子 (テニユア教員) / 大学院環境生命科学研究所 (環)

植物の環境応答に関わるエピジェネティックな制御システム

池田 陽子 (第IV期WTT教員) / 資源植物科学研究所

14:35~14:45 休憩

14:45~16:20 発表会 II

地下を介した水・物質輸送が生態系に及ぼす影響

齋藤 光代 (第IV期WTT教員) / 大学院環境生命科学研究所 (環)

がんモデル動物を用いた免疫変化の解析

増田 潤子 (第IV期WTT教員) / 大学院自然科学研究科 (工)

小胞型神経伝達物質トランスポーターの生理的意義と創薬ターゲットとしての可能性

日茂 未来 (テニユア教員) / 大学院医歯薬学総合研究科 (薬)

16:20 閉会挨拶

※託児サービスあります。(無料)

ご希望される場合は、12月1日(木)までに男女共同参画室までご連絡下さい。

お問い合わせ先

国立大学法人 岡山大学

ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室

〒700-8530 岡山市北区津島中(丁目)番1号

Tel : 086-251-7011 / Mail : saikaku1@adm.okayama-u.ac.jp / Web : http://www.okayama-u-diversity.jp





文部科学省科学技術人材育成費補助事業 テニュアトラック普及・定着事業

2017年度女性研究者シーズ発信会

2017年12月19日(火) 13:00~16:20
岡山大学創立五十周年記念館2階会議室

プログラム ※発表20分、質疑応答5分

どなたでも
参加できます
**参加費
無料**

13:00 ... 開会のあいさつ

13:10 ... 栗口 阿希子(第Ⅴ期WTT教員)大学院環境生命科学研究科(農)
「野生動物と人間の相互干渉空間における持続的な地域資源管理」

13:35 ... Yucel Zeynep(第Ⅴ期WTT教員)大学院自然科学研究科(工)
「人間の振る舞いの認識と理解のための情報学」

14:00 ... 休憩(15分間)

14:15 ... 田村 生弥(第Ⅵ期WTT教員)大学院環境生命科学研究科(環)
「事業場排水の生態影響評価に対する簡易試験法の適用」

14:40 ... 根本 理子(第Ⅵ期WTT教員)大学院環境生命科学研究科(農)
「生物による鉱物形成機構の解析」

15:05 ... 休憩(15分間)

15:20 ... 袴田 玲(第Ⅴ期WTT教員)大学院社会文化科学研究科(文)
「東方キリスト教の世界 ―聖山アトスと民衆―」

15:45 ... 小布施 折織(第Ⅵ期WTT教員)大学院環境生命科学研究科(環)
「回転球面上非粘性2次元乱流における大規模構造形成」

16:10 ... 閉会のあいさつ

外部コメンテーター

- 河村 能夫(鎌谷大学 名誉教授)
- 塩見 昌裕(ATR知能ロボティクス研究所 エージェントインタラクションデザイン研究室 室長)
- 高橋 英海(東京大学大学院総合文化研究科 教授)

対象者 教職員・大学院生・学生・関係機関・一般

※託児有り(無料)/ご希望される場合は、平成29年12月11日(月)までに男女共同参画室までご連絡下さい。

お問い合わせ
お申し込み

国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部 男女共同参画室
〒700-8530 岡山市北区津島中1丁目1番1号

[TEL] 086-251-7011 [E-mail] sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp
[URL] <http://www.okayama-u-diversity.jp>



最新の研究成果と地域企業とをつなぐ

平成30年度 岡山大学 ※企業無料・当日参加可

研究シーズ 発信会

日時 2018年12月4日(火)
10:20 ~ 16:00

会場 岡山大学 創立五十周年記念館
(岡山市北区津島中1-1-1) ※駐車場有

このようなお申し込み！

- 大学の研究について知りたい。
- 共同研究を検討している。
- 自社の販路・アイデアについて意見を聞きたい。
- 貴分野との協業研究に興味がある。

岡山大学では約1,000人の研究者が様々な研究を行っています。昨年度に続き今年も、産学・産官・産学・企業との協業・連携・交流を促進し、お互いの強みを生かして、新たなシーズを生み出す機会を創出します。研究費も、実用化を促進し、社会貢献を行います。岡山大学の研究にご興味のある方はぜひご参加ください。

【詳細】 http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/seed/seed_01.html
「研究シーズ発信会について」

【申し込み】 http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/seed/seed_01.html
「研究シーズ発信会 お申し込みフォーム」

お問い合わせ・お申し込み
岡山大学 研究推進産学官連携機構
TEL 086-871-8443
TEL 086-871-8447
E-mail: orpc@ipc.okayama-u.ac.jp

【主催】 国立大学法人岡山大学

【協賛】

（プログラム）

※参加申込の受付は10時30分開始となります。当日参加も可能です。

10:20~10:30	開会挨拶 岡山大学 産学・産官長（研究推進） 中西 圭二
11:00~11:05	10分スピーチ 10分スピーチ 10分スピーチ
11:05~11:25	企業と大学が連携するきっかけづくり 大学側 産学連携推進機構 教授 中西 圭二
11:30~11:45	スマートフォンアプリを利用した健康診断システム構築に向けて 大学側 産学連携推進機構 教授 中西 圭二
11:50~12:25	多岐岐市の産学連携推進センターを皮切りに、産学連携の取り組み 大学側 産学連携推進機構 教授 中西 圭二
12:30~12:45	午後の活動による産学連携推進の取り組み 大学側 産学連携推進機構 教授 中西 圭二
13:00~14:25	産学連携推進の取り組み事例、産学の連携が産学連携の発展と学生の教育 大学側 産学連携推進機構 教授 中西 圭二
14:30~14:45	がん検診の普及による産学連携推進の取り組み事例 大学側 産学連携推進機構 教授 中西 圭二
14:50~15:25	スマートフォンアプリを利用した健康診断システム構築に向けて 大学側 産学連携推進機構 教授 中西 圭二
15:30~15:55	産学連携推進の取り組み事例「産学連携推進センター」の取り組み 大学側 産学連携推進機構 教授 中西 圭二
15:55~16:00	閉会挨拶 岡山大学 研究推進産学官連携機構 副機構長 中西 圭二

【申込み】平成30年度岡山大学 研究シーズ発信会のお申し込みは
WEBからお願いします。
http://www.orpc.okayama-u.ac.jp/seed/seed_01.html

岡山大学 2018年度研究シーズ発信会 様子

※岡山大学 岡山大学（岡山市北区津島中1-1-1）
岡山創生記念館（岡山市北区津島中1-1-1）2階から
※岡山大学 岡山大学（岡山市北区津島中1-1-1）2階から

◎直前の案内は北ヶ丘IC・東ヶ丘ICの駐車場をご利用ください。 ◎ICは「岡大西門」付近から見た所

おokayamaサイエンストーク・トライアル

岡山大学の若手女性研究者であるWTT教員と大学院生が、それぞれの研究内容を学問分野の基礎知識とともに高校生・中学生に分かりやすく説明し、理系を中心とした科学への理解と興味を促すことを目的に開催している。高校生・中学生が自然科学系学術分野のおもしろさに目覚める機会を設け、岡山県全体の理数科教育の発展向上に繋がることを期待している。

平成22～28年度は、岡山県内および近隣の高校や中学校を訪問し、「おokayamaサイエンストーク」を実施してきた。平成29年度以降は、岡山大学キャンパス内で主に中学生を対象にした「おokayamaサイエンストーク&トライアル」を実施している。

ーリケジヨへの誘いー

岡大方式サイエンス・トーク&トライアル

1 サイエンス・トーク

- 対象
中学・高校生及び
保護者・教員のみなさま
- 内容
WTT教員*、大学院生が
最先端の研究内容、科学の面白さをお伝えます。

2 サイエンス・トライアル

- 対象
中学・高校生
- 内容
実験・制作作業体験等
実際に科学に触れることのできるイベントです。

◆ おokayamaサイエンストーク

WTT教員や大学院生が研究者になった動機、研究内容や面白さ、社会的意義などについて講演し、模擬授業的なスタイルで実施。

開催時期	開催校	講師／開催時の所属・職名
平成22年7月	岡山県立岡山一宮高等学校	吉岡（改姓後：西村）美保（第I期WTT教員） 大学院自然科学研究科 助教（特任）
平成22年8月	ノートルダム清心学園 清心女子高等学校	三谷 奈見季（第I期WTT教員） 資源植物科学研究所 助教（特任）

開催時期	開催校	講師／開催時の所属・職名
平成22年9月	岡山県立総社高等学校	吉岡 (改姓後:西村) 美保 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成22年11月	岡山県立玉島高等学校	御輿 真穂 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成23年7月	岡山県立総社高等学校	前田 恵 (第Ⅱ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成23年7月	岡山県立勝山高等学校	御輿 真穂 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成23年7月	岡山県立矢掛高等学校	江口 律子 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成23年9月	岡山大学教育学部附属中学校	吉岡 (改姓後:西村) 美保 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成23年10月	岡山県立岡山一宮高等学校	宮崎 祐子 (第Ⅱ期WTT教員) 大学院環境学研究科 助教 (特任)
平成24年7月	岡山県立高松農業高等学校	本田 恭子 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成24年7月	岡山県立総社高等学校	日浅 未来 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院医歯薬学総合研究科 助教 (特任)
平成24年7月	岡山県作陽高等学校	江口 律子 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成24年7月	岡山県立矢掛高等学校	門田 有希 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境学研究科 助教 (特任)
平成24年8月	ノートルダム清心学園 清心女子高等学校	飯尾 友愛 (第Ⅱ期WTT教員) 大学院保健学研究科 助教 (特任)
平成24年9月	朝日塾中等教育学校	宮崎 祐子 (第Ⅱ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成24年10月	岡山県立勝山高等学校	三谷 奈見季 (第Ⅰ期WTT教員) 資源植物科学研究所 助教 (特任)
平成24年10月	岡山学芸館高等学校	御輿 真穂 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成24年10月	岡山県立岡山一宮高等学校	山本 ゆき (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成25年7月	岡山県作陽高等学校	三谷 奈見季 (第Ⅰ期WTT教員) 資源植物科学研究所 助教 (特任)
平成25年7月	岡山県立矢掛高等学校	宮崎 祐子 (第Ⅱ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成25年8月	ノートルダム清心学園 清心女子高等学校	門田 有希 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)

開催時期	開催校	講師／開催時の所属・職名
平成25年9月	岡山学芸館高等学校	日浅 未来 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院医歯薬学総合研究 助教 (特任)
平成25年9月	朝日塾中等教育学校	齋藤 光代 (第Ⅳ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成25年10月	林野高等学校	山本 ゆき (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成25年10月	岡山県立岡山一宮高等学校	前田 恵 (第Ⅱ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成25年10月	岡山県立総社高等学校	増田 潤子 (第Ⅳ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成26年7月	岡山県作陽高等学校	門田 有希 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成26年7月	福山暁の星女子高等学校	井上 麻夕里 (第Ⅴ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成26年7月	岡山県立矢掛高等学校	増田 潤子 (第Ⅳ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成26年8月	ノートルダム清心学園 清心女子高等学校	池田 陽子 (第Ⅳ期WTT教員) 資源植物科学研究所 助教 (特任)
平成26年9月	ノートルダム清心学園 清心中学校	門田 有希 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成26年10月	岡山龍谷高等学校	日浅 未来 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院医歯薬学総合研究科 助教 (特任)
平成26年10月	岡山県立総社高等学校	齋藤 光代 (第Ⅳ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成26年10月	岡山県立倉敷中央高等学校	山本 ゆき (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成27年1月	福山暁の星女子中学校	門田 有希 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成27年7月	岡山大学教育学部附属中学校	根本 理子 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成27年7月	岡山県作陽高等学校	相澤 清香 (第Ⅴ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 (理) 助教 (特任)
平成27年7月	岡山県立高松農業高等学校	山本 ゆき (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教
平成27年10月	岡山県立倉敷中央高等学校	池田 陽子 (第Ⅳ期WTT教員) 資源植物科学研究所 助教 (特任)
平成28年6月	岡山県立岡山芳泉高等学校	小布施 祈織 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)

開催時期	開催校	講師／開催時の所属・職名
平成28年7月	岡山県作陽高等学校	井上 麻夕里 (第Ⅴ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
平成28年7月	岡山県立瀬戸南高等学校	根本 理子 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成28年8月	岡山県立倉敷中央高等学校	齋藤 光代 (第Ⅳ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
平成28年8月	山陽学園 山陽女子中学校・高等学校	田村 生弥 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)

◆ おかやまサイエンストーク&トライアル

平成29年度以降、自然界の物や事象を発見し、仕組みを知るための方法を体験（実験・体験教室）するイベントとして開催。

令和2年度は、新たな取組みとして、女性研究者との対談形式のトークイベント「サイエンス・ライブ」を実施。

開催時期	実施内容	講師／開催時の所属・職名
平成29年8月	トーク：生物時計とホルモン	相澤 清香 (第Ⅴ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 (特任)
	トライアル：香りによる気分への効果体験	飯尾 友愛 (第Ⅱ期WTT教員) 大学院保健学科学研究科 助教
	トライアル：電子顕微鏡を使って生物を見てみよう	根本 理子 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
	トーク：環境にやさしいってなに？	田村 生弥 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
	トライアル：うみほたるの蛍光を見る	御輿 真穂 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教
平成30年8月	トーク：命について考える－理系・文系それぞれの立場から	御輿 真穂 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 袴田 玲 (第Ⅷ期WTT教員) 大学院社会文化科学研究科 助教 (特任)
	トライアル：電子顕微鏡を使って生物を見てみよう	根本 理子 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
	トライアル：うみほたるの蛍光を見る	御輿 真穂 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教
令和元年8月	トーク：命について考える－理系・文系それぞれの立場から	御輿 真穂 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 袴田 玲 (第Ⅷ期WTT教員) 大学院社会文化科学研究科 助教 (特任)

開催時期	実施内容	講師／開催時の所属・職名
令和元年8月	トライアル：電子顕微鏡を使って生物を見てみよう	根本 理子 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
	トライアル：不思議な雲の流れを再現してみよう	小布施 祈織 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 助教 (特任)
令和2年8月 (オンライン開催)	トーク：身の回りの液体の性質について－pH (酸性・アルカリ性)－	井上 麻夕里 (第Ⅴ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 准教授
	トライアル：自宅で酸性・アルカリ性を調べてみよう！	井上 麻夕里 (第Ⅴ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 准教授
	ライブ (女性科学者による座談会のライブ配信)：教えて！博士！－大学の先生に聞いてみよう！－	井上 麻夕里 (第Ⅴ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 准教授 御輿 真穂 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 増田 潤子 (第Ⅳ期WTT教員) 大学院ヘルスシステム統合科学研究科 助教 門田 有希 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 准教授 小布施 祈織 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 准教授
令和2年12月 (オンライン開催)	ライブ (女性科学者による座談会のライブ配信)：好きなことを追求したら、気がつけば、大学の研究者	御輿 真穂 (第Ⅰ期WTT教員) 大学院自然科学研究科 助教 日浅 未来 (第Ⅲ期WTT教員) 大学院医歯薬学総合研究科 講師 増田 潤子 (第Ⅳ期WTT教員) 大学院ヘルスシステム統合科学研究科 助教 小布施 祈織 (第Ⅵ期WTT教員) 大学院環境生命科学研究科 准教授



令和2年8月実施



令和2年12月実施

広報誌紹介

女性研究者シーズ集

WTT教員等女性研究者の研究内容を紹介する「女性研究者シーズ集」を定期的に発行している。本シーズ集を発行することにより、新たな共同研究のグループ形成等、更なる研究の進展へと結びつくことを期待している。

本シーズ集は、以下のWebサイトに掲載。

◆ 岡山大学ダイバーシティ推進本部ホームページ／広報誌

<https://www.okayama-u-diversity.jp/pr-brochure>



● 女性研究者シーズ集－WTT教員編－（平成27年4月発行）

https://www.okayama-u-diversity.jp/wp/wp-content/uploads/2018/06/h26_seeds.pdf

● 女性研究者シーズ集－WTT教員編（英語版）－（平成28年3月発行）

https://www.okayama-u-diversity.jp/file/h26_seeds_eng.pdf

● 女性研究者シーズ集－WTT教員編 vol.2－（平成30年3月発行）

https://www.okayama-u-diversity.jp/wp/wp-content/uploads/2018/06/h29_seeds.pdf



WTT 制の継続



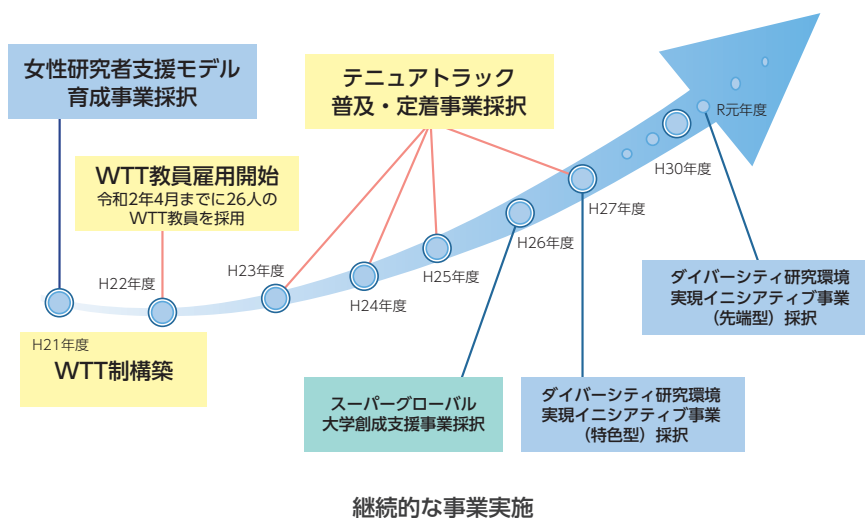
WTT制の推進

様々な事業によるWTT制の推進

平成21年度に女性研究者の雇用促進・育成を目的とした「WTT制」を構築し、平成22年度採用の第Ⅰ期から現在まで第Ⅺ期にわたり継続してWTT教員を採用することができた。

その背景として、平成23年度から平成27年度まで継続して文部科学省科学技術人材育成費補助事業「テニュアトラック普及・定着事業」の採択を受けたことにより、WTT教員の自立的な研究環境が整備され、学内でテニュア・トラック制度が定着し、また、平成26年度に「スーパーグローバル大学創成支援事業」に採択され、全学的に女性の活躍を含めたダイバーシティ推進とテニュア・トラック制度を推進してきたことが、WTT制の推進を大きく後押ししてきた。

さらに、平成27年度には文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（特色型）」、令和元年度には文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（先端型）」に採択され、女性研究者の上位職登用、採用比率促進、助成金制度等、さまざまな取組を実施することで、女性研究者の自立的な研究環境の充実を図ってきたこともWTT制推進の大きな要因の一つとなっている。



WTT制の継続が若手女性研究者の活躍促進へ

優秀なWTT教員を雇用・育成した結果、WTT教員26人の内、すでに20人がテニュアを取得し、現在までに、教授1人、准教授12人、講師1人へと昇任しており、WTT教員の活躍がロールモデルとなって、若手女性研究者の活躍促進へと繋がっている。

また、女性研究者の積極的採用、資質向上、研究環境の充実を図ったことは、本学における女性教員の採用比率、在職比率向上に貢献し、さらに大学全体の研究力向上、活性化への効果を及ぼしている。今後もWTT制を継続し、グローバルに活躍できる女性研究者の育成と活躍促進を強化する取組を推進していく。

テニユアトラック普及・定着事業



事業概要

平成23年度～令和元年度までの9年間、文部科学省科学技術人材育成費補助事業「テニュアトラック普及・定着事業」の支援を受けたことにより、女性研究者の積極的採用、女性教員の資質向上、研究環境の充実等、さまざまな取組を行い、WTT制の推進を加速することができた。

－「テニュアトラック普及・定着事業公募要領」から抜粋－

◆ 事業の目的

本事業では、若手研究者が自立して研究することができる環境を整備するとともに、テニュアトラック制という公正で透明性の高い人事制度を構築し、研究リーダーとなる教員・研究者へと育成するため、テニュアトラック制を実施する大学等に対して、テニュアトラック教員の研究費等を支援することによって、テニュアトラック制の普及・定着を図ることを目的とします。なお、テニュアトラック制については、第4期科学技術基本計画（平成23年8月閣議決定）においても、「国は、テニュアトラック制の普及、定着を進める大学への支援を充実する。これにより、各大学が、その目的や特性に応じて、テニュアトラック制の導入を進めることにより、テニュアトラック制の教員の割合を、全大学の自然科学系の若手新規採用教員数の3割相当とすることを目指す。」とされています。

◆ 補助事業期間

補助対象となるのは、原則として5年間とします。ただし、1人のテニュアトラック教員に対する支援はスタートアップに必要な研究費を支援する観点から、採用年度とその次年度の2年度とします。

◆ 申請対象となる取組

部局等において、テニュアトラック制を実施し、採用されたテニュアトラック教員の自立した研究活動を促進するための諸環境を整備するとともに研究リーダーとなる教員・研究者へと育成する取組とします。

◆ 補助対象経費

本事業は、テニュアトラック教員へのスタートアップに要する研究費等を支援するものです。

〔機関選抜型〕：テニュアトラック制を実施するための経費とテニュアトラック教員の研究費を支援。

〔個人選抜型〕：〔機関選抜型〕に選定された機関において、採用されているテニュアトラック教員の中から、特に優秀なテニュアトラック教員を選抜し、人件費及び研究費としても使用可能な資金を上乗せして支援。

※「個人選抜型」については、平成25年度で終了。

◆ テニュアトラック教員の募集及び選考・採用に関する要件

- 1 博士号取得後10年以内又は同等程度の研究経歴^{*1}を有する若手研究者^{*2}であること。

- ② 一定の任期（5年間のトラック期間を規準とする）を付して雇用すること。
- ③ 平成26年4月1日以降に、テニユアトラック教員として雇用されている、あるいは雇用予定の若手研究者（助教相当以上）であること。
- ④ 国際公募^{*3}を実施し、公正で透明性の高い選考方法（十分な公募期間の確保、申請機関外委員を含む選考委員会の設置、他機関未経験者比率が高くなりすぎない工夫（50%以下が望ましい）、公募時にテニユア審査基準概要を明示等）を採っていること。
- ⑤ 任期終了後のテニユアポストが用意されていること（テニユアポストは、昇任して年俸制パーマナント職とすることが望ましいですが、必須要件ではありません。但し、テニユアポストが助教の場合には、研究主宰者（Principal Investigator; PI）として自立した研究環境が整備されていることなどが必須要件）。

^{*1} 博士課程に標準年限以上在学し、所定の単位を修得の上、退学した者（いわゆる「満期退学者」）で、退学後10年以内の研究者。

^{*2} 40歳未満とします。但し、臨床研修を課された医学系分野においては43歳未満とします。

^{*3} 本事業における国際公募とは、ホームページ等において英文で公募を行うこととします。

◆ テニユアトラック教員の研究環境に関する要件

- ① 研究主宰者（Principal Investigator; PI）として、自立した研究活動が出来る環境（例：研究資金の措置、研究支援体制の充実、研究スペースの確保、主任指導教員としての大学院生の研究室への配属、メンター^{*4}の配置等）を整備すること。
- ② テニユアトラック教員の年間の全仕事時間を100%とした場合、そのうち研究活動に関するエフォートが60%以上であること（60%以上の範囲内で実施機関の特性に応じて70%や80%も設定可能とする）。^{*5}

^{*4} ただし、メンターが、テニユアトラック教員の研究テーマや研究方法に関する支援を行う場合には、複数のメンターを配置する等テニユアトラック教員の研究活動の自立性を損なうことがないように注意する必要があります。

^{*5} 研究活動に関するエフォートには博士課程（前期）学生等の主任指導を含みます。

申請概要

—平成23年度申請書（抜粋）—

◆ 機関の現状

① 研究推進と若手研究者支援

岡山大学は、総合大学院制の利点を活かし、学問の進展に普遍的な重要性をもつ基礎研究を多面的視座から推進するとともに、社会的重要度の高い研究課題、異分野融合研究、国際的に卓越した水準にある先端研究及び近い将来その水準に達することが期待される研究を重点的に推進・支援している。そして、これらの研究を担う若手研究者を育成するため、若手教員スタートアップ研究支援事業や次世代研究者・異分野研究連携体育成支援事業等、若手教員を対象として様々な形で研究費を支援するとともに、科研費等の外部競争の資金獲得講習会を実施、海外の教育研究機関への派遣による先進的な研究への参画等、多面的な支援事業を進めている。

② テニユアトラック制への取組

本学では、優秀な研究者を確保するため、テニユアトラック制（以下「TT制」という。）の導入を中期計画に掲げ、学内での普及・定着に向けた取組を推進している。

本学のTT制の実績としては、重点施策の一環として、平成20年度採択された文部科学省「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業において、優秀な若手研究者の確保・育成を目的とした「異分野融合先端研究コア」（研究拠点）を設置し、TT制を導入している。同コアに配属されたTT教員は、特別に整備された環境の下で研究活動を重点的に行い、自身の研究を進展させつつ、後半期には教育活動も行い、大学教員としての資質を高めていくシステムとなっている。

③ ウーマン・テニユア・トラック制度

本学におけるTT制の普及・定着をより一層推進するため、平成21年度には、大学の自主経費による女性研究者の雇用促進・育成を目的とした「ウーマン・テニユア・トラック（WTT）制度」を構築し、平成22年度よりWTT教員を計画的に採用（Ⅰ期生4人、Ⅱ期生3人）している。WTT制度においては、特に女性支援という観点から、上述の支援事業よりも手厚いスタートアップ研究支援や研究スペースの確保、研究活動の助言を行うメンター教員の配置などの特別な支援が大きな特徴となっている。

また、WTT教員は研究エフォートが高いが、メンター教員の指導の下、教育活動も行うことで、本学が目指す大学教員として、教育と研究にバランスのとれた人材育成を行っている。

本学では、これらのTT制の実践を踏まえ、平成22年11月にTT制に関する全学規則を制定、平成23年1月に全学シンポジウムを開催するなど、TT制の着実な全学展開を推し進めている。

このほか、乳幼児保育施設、学童保育施設、病児・病後児保育施設の設置による仕事と育児の両立支援、女性サポート相談室の設置等、研究サポート体制の充実により、全学的に若手研究者・女性研究者の自立的な教育研究環境の整備を図っている。

—平成24年度申請書（抜粋）—

◆ 機関の現状

① 機関としてのテニユアトラック制の推進体制等

本学では、優秀な研究者を確保するため、テニユアトラック制（以下「TT制」という。）の導入を中期計画に掲げ、学内での普及・定着に向けた取組を推進している。

本学のTT制の実績としては、平成20年度採択された文部科学省「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業において、優秀な若手研究者の確保・育成を目的とした「異分野融合先端研究コア」（研究拠点）を設置し、TT制を導入している。

更に、平成21年度には、大学の自主経費による女性研究者の雇用促進・育成を目的とした「ウーマン・テニユア・トラック（WTT）制」を構築し、平成22年度よりWTT教員を計画的に採用（Ⅰ期生4人、Ⅱ期生3人、Ⅲ期生4人）している。

これらのTT制の実践を踏まえ、平成22年11月にTT制に関する全学規則を制定、平成23年1月に全学シンポジウムを開催するなど、TT制の着実な全学展開を推し進めている。

その結果、言語教育センター、大学院社会文化科学研究科、資源植物科学研究所で導入しており、現在、大学院環境生命科学研究科、大学院自然科学研究科においても導入を検討しているところである。

また、平成23年度継続事業で要求しているTT教員を支援する担当教員を男女共同参画室の所属とし、同室が行う各種取組の調整、WTT制の実施に関する業務を行う。

② 機関としての人材育成策の方針や理念

優秀な若手研究者の確保及び育成制度の充実は、本学の中期目標・中期計画にも掲げており、総合大学院制の利点を活かし、学問の進展に普遍的な重要性をもつ基礎研究を多面的視座から推進するとともに、社会的重要度の高い研究課題、異分野融合研究、国際的に卓越した水準にある先端研究及び近い将来その水準に達することが期待される研究を重点的に推進・支援している。そして、これらの研究を担う若手研究者を育成するため、若手教員スタートアップ研究支援事業等、若手教員を対象として様々な形で研究費を支援するとともに、科研費等の外部競争的資金獲得講習会を実施、海外の教育研究機関への派遣による先進的な研究への参画等、多面的な支援事業を進めている。

③ 機関として学内でテニユアトラック制を推進するための具体的方策

平成22年11月にTT制に関する全学規則を制定、平成23年1月には全学シンポジウムを開催した。平成23年3月には「岡山大学男女共同参画推進基本計画」を策定し、行動計画として、女性教員増加のための取組を掲げている。この取組の一つとして、WTT制を活用することを全学のダイバーシティ推進委員会において決定している。

また、関係各理事（企画・総務担当、教育担当、研究担当）と大学院自然科学研究科、大学院環境生命科学研究科間で、TT制についての検討を行うほか、保育施設、研究サポート体制の充実など、全学的に若手研究者・女性研究者の自立的な教育研究環境の整備を図り、TT制（WTT制）の導入を推進している。

WTT制は、女性に特化した制度であるため、WTT教員を支援する若手の博士研究員が女性である場合には、被支援者であるWTT教員をロールモデルとし、自身の雇用期間終了後には、次期WTT教員候補者として応募することを推奨している。

また、若手研究者キャリア支援センターが実施している「ポストドクター・インターンシップ推進事業」と連携し、当事業への参加も可能となっている。研究支援者として在職中は、若手研究者育成のための各種セミナー、勉強会へも積極的な参加を呼びかけ、WTT教員とともに優秀な研究者への道筋を確保する予定である。

－平成25年度申請書（抜粋）－

◆ 機関の現状

① 機関としての人材育成策の方針や理念

優秀な若手研究者の確保及び育成制度の充実は、本学の中期目標・中期計画にも掲げており、総合大学院制の利点を活かし、学問の進展に普遍的な重要性をもつ基礎研究を多面的視座から推進するとともに、社会的重要度の高い研究課題、異分野融合研究、国際的に卓越した水準にある先端研究及び近い将来その水準に達することが期待される研究を重点的に推進・支援している。そして、これらの研究を担う若手研究者を育成するため、若手教員スタートアップ研究支援事業等、若手教員を対象として様々な形で研究費を支援するとともに、科研費等の外部競争的資金獲得講習会の実施、海外の教育研究機関への派遣による先進的な研究への参画等、多面的に支援事業を進めている。

② 機関として学内でテニュアトラック制を推進するための具体的方策

平成22年11月にTT制に関する全学規則を制定、平成23年1月には全学シンポジウムを開催した。平成23年3月には「岡山大学男女共同参画推進基本計画」を策定し、行動計画として、女性教員増加のための取組を掲げている。この取組の一つとして、WTT制を活用することを全学のダイバーシティ推進委員会において決定している。

また、関係各理事（企画・総務担当、教育担当、研究担当）と大学院自然科学研究科、大学院環境生命科学研究科間で、TT制についての検討を進めているほか、保育施設、研究サポート体制の充実など、全学的に若手研究者・女性研究者の自立的教育研究環境の整備を図り、TT制（WTT制）の導入を推進している。

③ 機関としてのテニュアトラック制の推進体制等

本学では、テニュアトラック制（以下「TT制」という。）の導入を中期計画に掲げ、学内での普及・定着に向けた取組を推進している。TT制の実績としては、平成20年度採択された文部科学省「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業において、優秀な若手研究者の確保・育成を目的とした「異分野融合先端研究コア」（研究拠点）を設置し、TT制を導入している。更に、平成21年度には、大学の自主経費による女性研究者の雇用促進・育成を目的とした「ウーマン・テニュア・トラック（WTT）制」を構築し、平成22年度よりWTT教員を計画的に採用している。

これらのTT制の実践を踏まえ、平成22年11月にTT制に関する全学規則を制定、平成23年1月に全学シンポジウムを開催するなど、TT制の着実な全学展開を推し進めている。その結果、言語教育センター、大学院社会文化科学研究科、資源植物科学研究所で導入しており、現在、大学院環境生命科学研究科、大学院自然科学研究科においても導入を検討している。

また、平成23年度継続事業で要求しているTT教員を支援する担当教員を男女共同参画室の所属

とし、同室が行う各種取組の調整、WTT制の実施に関する業務を行う。

－平成27年度申請書（抜粋）－

◆ 機関の現状

① 機関としてのテニユアトラック制の推進体制

本学では、テニユアトラック制（以下「TT制」という）の導入を中期計画に掲げ、自立若手教員による異分野融合領域の創出事業（平成20年度「若手研究者の自立的研究環境整備促進事業」採択）により、優秀な若手研究者の確保・育成を目的とした「異分野融合先端研究コア」（RCIS）を設置し、本学で最初のTT制を導入した。採用に際しては国際公募を実施の上、年俸制を適用し、スタートアップ資金、独立スペースを提供する等自立して研究ができる環境の整備を行った。また、分野の異なる複数のメンター教員を配置し、異分野融合研究の推進を図ってきた。

現在までに13名のTT教員を採用し、8名がテニユア資格を獲得して部局等に配属されている。残り5名のうち3名はテニユアトラック期間中に他大学（2名）及び本学（1名）のテニユア准教授に採用された。

補助金事業は平成24年度に終了し、事後評価では最高評価の「S」を獲得し、平成25年度以降は大学の自主財源で引き続き実施しており、新たに、グローバルテニユアトラック制（GTT）の導入を図る予定である。

平成21年度には、大学の自主財源による女性研究者の雇用促進・育成を目的とした「ウーマン・テニユア・トラック（WTT）制」を構築し、平成22年度に第Ⅰ期WTT教員4名を雇用し、その後もWTT教員を計画的に採用している。平成23年度以降は、「テニユアトラック普及・定着事業」の採択を受け、平成26年度までに16名のWTT教員を採用し、10名がテニユア資格を取得している。RCISと同様、スタートアップ資金、独立スペースの提供、メンター教員の配置に加え、女性サポート相談室の開設により、女性教員をソフト面でも支援する環境を整えている。現在、TT制によるWTT教員の雇用について、大学院社会文化科学研究科及び大学院教育学研究科でも導入を検討しており、平成27年度以降の実施に向けて、各研究科において審議しているところである。

また、平成22年度にTT制に関する全学規則を制定し、全部局がTT制の導入に向けて検討を開始し、平成26年度には、111名がTT教員として在籍している。さらに、平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援（Top Global University Project）」に採択され、本構想の取組みとして、第4期科学技術基本計画に基づき、部局単位でのTT制の拡大を掲げており、未導入部局への適用の拡大を図っている。

これらにより、今後も継続して岡山大学全体の教育・研究の活性化に向け、TT制による優秀な教員の確保・育成を促進し、教員の能力及び資質の向上を目指し推進している。

これらの研究を担う若手研究者を育成するため、若手教員スタートアップ研究支援事業等、若手教員を対象として様々な形で研究費を支援するとともに、科研費等の外部競争的資金獲得講習会の実施、海外の教育研究機関への派遣による先進的な研究への参画等、多面的に支援事業を進めている。

WTT制においては、研究の遂行に加えて、学部、大学院学生の指導に従事することによりバランスのとれた自立した研究主宰者としての育成を目指しており、メンター教員を配置し、教育面の他、ワーク・ライフ等全般に関するメンタリング支援の体制を整え、WTT教員の成長を最大限サポートしている。また、本学の若手研究者キャリア支援センターが実施している「ポストドクター・インターンシップ推進事業」の対人能力向上を目的とした研修やリーダーシップセミナー等に積極的に参加できる体制を整え、連携を行っている。

③ 機関として学内でテニュアトラック制を推進するための具体的方策

平成22年11月にTT制に関する全学規則を制定し、平成23年1月には全学シンポジウムを開催した。平成23年3月には「岡山大学男女共同参画推進基本計画」を策定し、行動計画として、女性教員増加のための取組を掲げている。この取組の一つとして、WTT制を活用することを全学のダイバーシティ推進委員会において決定している。

また、関係各理事(企画・総務担当、教育担当、研究担当)とTT制が未導入の大学院自然科学研究科、大学院環境生命科学研究科間で、TT制の導入についての検討を進めている。

優秀な人材の確保・育成のため、広く公募(国際公募等)することを原則としてTT制を導入し、女性研究者や外国人研究者の研究サポート体制の構築、自立的な研究環境の整備、保育施設の充実など、全学的に若手研究者・女性研究者の自立的な教育研究環境の整備を図り、更なるTT制の導入を推進している。

◆ テニユア・トラック制の推進

平成21年度文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に採択され、質の高い女性研究者の雇用・育成とその持続性を促進する仕組みである「WTT制」を構築し推進してきたが、平成23年度から平成27年度まで継続して文部科学省科学技術人材育成費補助事業「テニユアトラック普及・定着事業」に採択されたことにより、WTT制の推進を更に加速することができた。

また、本学では、学長主導により若手研究者の確保・育成についての方策を第2期および第3期国立大学法人岡山大学中期計画に掲げ、テニユア・トラック制の導入を図ってきた。

WTT教員の活躍やスーパーグローバル大学創成支援事業によるテニユア・トラック制の推進により、全学にテニユア・トラック制が浸透し定着している。

－第2期 国立大学法人岡山大学中期計画（平成22年度～平成27年度）（抜粋）－

◆ 優秀な研究人材の確保・育成に関する具体的方策

- ① 研究者の確保にあたっては重点研究領域での採用を優先するとともに、国際的に人材を集める。
- ② 優秀な人材を確保するため、テニユア・トラック制を導入する等、柔軟な人事制度を促進する。

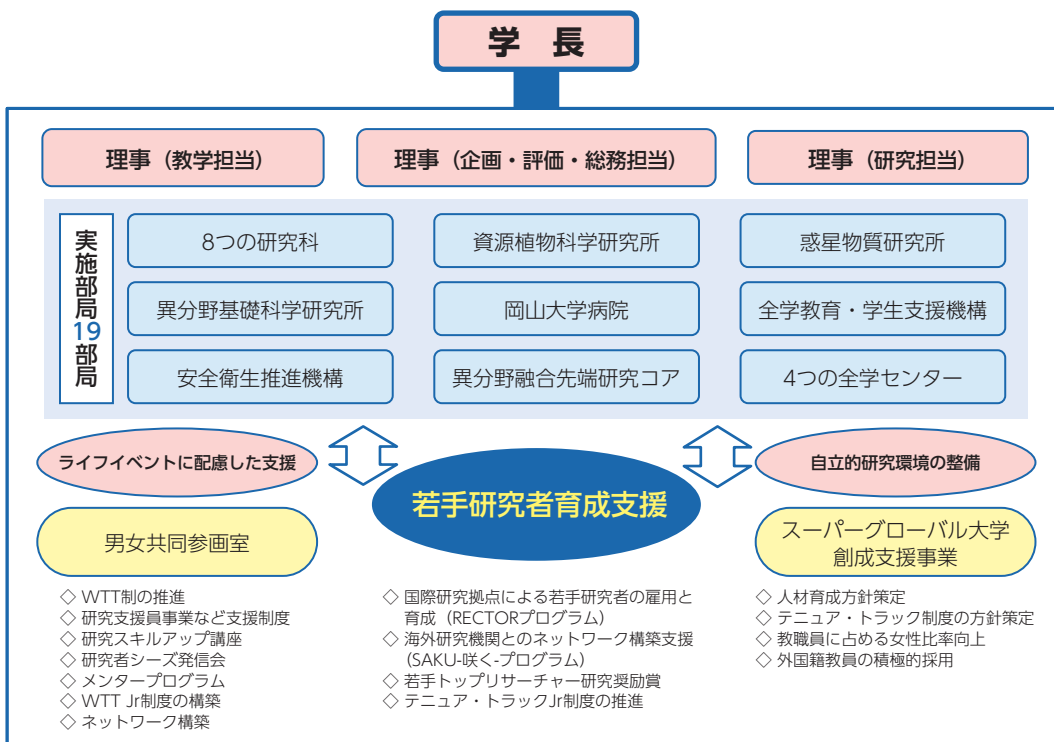
◆ 人材の確保、人材の養成などについての計画

- ① 教員については、広く公募することを原則とし、テニユア・トラック制の導入、女性研究者や外国人研究者の研究サポート体制の構築などにより、優秀な人材の確保及び養成に努める。

－第3期 国立大学法人岡山大学中期計画（平成28年度～令和3年度）（抜粋）－

◆ 研究者等の配置に関する目標に関する具体的方策

- ① 優秀な若手研究者を確保し育成するため、テニユア・トラック制、年俸制等柔軟な人事制度を拡充するほか、テニユア・トラック教員の海外研究機関への留学などによりグローバルに活躍できる若手研究者を育成するグローバル・テニユア・トラック制度を新設するなど、若手を中心とした海外協定校との研究者交流を推進する。



テンユア・トラック制の推進体制



テンユア・トラック制の推進

補助事業概要

◆ 補助対象期間

平成23年度テニユアトラック普及・定着事業に採択されて以降、平成24年度、平成25年度、平成27年度と継続して採択され、約9年間、事業を推進してきた。

本事業により研究費を支援したテニユア・トラック教員は19人。その内、個人選抜型に選定されたテニユア・トラック教員は6人である。

採択年度	補助対象期間 (機関選抜型：申請時テニユア・トラック教員採用予定人数)									
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	
H23年度	【機関選抜型】 第Ⅰ期 WTT 教員4人 第Ⅱ期 WTT 教員3人 第Ⅲ期 WTT 教員3人									
	【個人選抜型】 第Ⅰ期 WTT 教員3人*			※3人の内1人について、ライフイベントによりテニユア・トラック任期を6ヶ月延長						
	【個人選抜型】 第Ⅱ期 WTT 教員3人									
H24年度		【機関選抜型】 第Ⅲ期 WTT 教員1人 第Ⅳ期 WTT 教員3人								
H25年度			【機関選抜型】 第Ⅴ期 WTT 教員2人							
H27年度						【機関選抜型】 第Ⅵ期 WTT 教員3人				

◆ 補助対象経費

【機関選抜型】

- ・テニユア・トラック事業を実施するための経費
- ・テニユア・トラック教員へのスタートアップに要する研究費

【個人選抜型】

- ・選定された機関において採用されているテニユア・トラック教員から特に優秀なテニユア・トラック教員を選定し、「機関選抜型」の研究費に上乗せして人件費および研究費を支援

◆ 補助金交付金額

(万円)

交付年度	機関選抜型		個人選抜型
	実施のための経費	WTT 教員研究費	選定されたWTT 教員研究費
平成23年度	2,410	7,000	7,500
平成24年度	2,620	7,500	7,500
平成25年度	2,410	5,000	3,505
平成26年度	1,900	3,300	—
平成27年度	1,107.5	2,900	—
平成28年度	600	1,900	—
平成29年度	300	—	—
平成30年度	200	—	—
令和元年度	202	—	—
合 計	1億1,749.5	2億7,600	1億8,505
	3億9,349.5		
総合計	5億9,754.5		

◆ 中間評価・事後評価の実施

本学のテニュア・トラック制の推進状況、テニュア・トラック教員の研究成果、研究・教育活動の活性化への貢献等、各調書に基づき書面評価が行われた（事後評価においては、書面評価および面接ヒアリングによる評価）。

◆ 評価の主な観点

【1】 テニュア・トラック制の内容

- ① 制度設計・組織体制
- ② テニュア・トラック教員の国際公募、選考及び採用方法
- ③ 自立的研究環境の整備と育成方針等
- ④ 中間評価、テニュア審査の方法

【2】 実績・目標達成

- ① 目標達成状況
- ② テニュア・トラック教員の研究成果、実績

【3】 補助事業終了後の継続性

◆ 評価結果

評価実施	事業実施期間								
	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
H25年6月	① 中間評価結果 B								
H27年6月			② 中間評価結果 A						
H29年5月					③ 中間評価結果 A				
R元年5月	④ 事後評価結果 A								
R2年10月					⑤ 事後評価結果 B				

①～⑤評価結果の詳細については64～69ページ参照。

事業実施期間および評価結果①～⑤

(中間評価)

テニユアトラック普及・定着事業
(実施期間：平成 23～27 年度)

岡山大学

(1) 制度設計	(2) 進捗状況	(3) 今後の進め方等	機関の総合評価
a	a	b	B
女性教員の積極的な登用とその育成を目的として、テニユアトラック制度を導入していることは評価する。しかし、育成期間が3年ではPIとして育成する時間が不十分であり、育成期間5年の育成を基礎としたテニユアトラック制度の定着が必要である。			

ウーマン・テニユア・トラック

(1) 制度設計	(2) 進捗状況	(3) 公募、採用及び選考等	(4) 自立的な研究環境の整備及び育成方針等	(5) 今後の進め方等	機関の評価を加味した部局の総合評価
a	a	b	b	a	B
女性教員の積極的な登用とその育成を目的として、テニユアトラック制度を導入していることは評価する。しかし、3年のテニユアトラック期間は、研究の立ち上げ、成果の公表に必要な時間を考えると、育成期間として不十分であり、H24 年度より変更した育成期間 5 年の育成を基礎としたテニユアトラック制度の定着が望まれる。また、人事採用に関しては自機関出身者が多いことから、公募分野の検討を行うなど広く人材を集めるための改善が必要である。					

総評

改善を要する点がある。女性研究者数の積極的な登用とその育成を目的として、テニユアトラック制度の取組を実施していることは評価する。育成期間 5 年の育成を基礎としたテニユアトラック制度の定着、また、人事採用では公募分野の検討を行うなど広く人材を集めるための改善が必要である。

- S, s: 優れた取組を進めており、順調に進捗している
- A, a: 適切な取組を行っており、概ね順調に進捗している
- B, b: 改善を要する点がある
- C, c: 重大な問題がある

(中間評価)

テニユアトラック普及・定着事業
(実施期間：平成 25～29 年度)

岡山大学

機関

(1) 制度設計	(2) 進捗状況	(3) 今後の進め方等	機関の総合評価
a	b	a	A
<p>「若手研究者の自立的な研究環境整備促進事業」の経験を生かして、優秀な若手女性研究者の獲得と育成を目的として、テニユアトラック制を導入している。さらに、全学規定を制定して、制度の全学への普及を目指しており、自主的な取組として文系を含む3部局で導入が行われ、2部局で導入の検討が行われている。しかしながら、一部の部局ではテニユアトラック制に対する理解が十分に進んでおらず、PIとしての自立的環境の確保等について改善を要する事例も見られる。より一層の学長のリーダーシップが必要である。</p>			

ウーマン・テニユア・トラック

(1) 制度設計、計画等	(2) 進捗状況	(3) 公募、採用、選考等	(4) 研究者の育成	(5) 今後の進め方	部局の総合評価
a	a	b	b	a	A
<p>全学組織として、優秀な若手女性研究者の獲得と育成を目的として、部局と連携して、テニユアトラック制の推進を図っている。異なる分野の研究者が在籍しており、異分野交流の中で、研究者としての育成がなされ、また、女性研究者としてのワークバランスを配慮した研究支援が行われている。女性研究者のテニユアトラック制が、好循環を呼び、全学での女性研究者数の増加に繋がっている。しかしながら、博士課程前期学生の主任指導が認められていないこと、また、テニユアトラック教員の半数がメンター教員の助教の立場にあることについては改善が必要である。</p>					

- S, s: 優れた取組を進めており、順調に進捗している
- A, a: 適切な取組を行っており、概ね順調に進捗している
- B, b: 改善を要する点がある
- C, c: 重大な問題がある

(中間評価)

テニュアトラック普及・定着事業

(実施期間：平成 27～31 年度)

実施機関：岡山大学（総括責任者：横野 博史）

(1) 評価結果

総合評価	制度設計 (人材育成策の 方針、理念、機 関のリーダーシ ップを含めて)	進捗状況 (具体的方策、推進体制、成果等を含めて)			今後の進め方 (普及・定着に 向けた今後の進 め方や継続性、 将来展望)
		目標達成状況	公募・選考・ 採用	研究者の育成	
A	b	a	a	b	a

総合評価：A(適切である)

(2) 評価コメント

「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業でスタートしたテニュアトラック制の経験が全学で共有され、優秀な若手研究者の確保・育成を目的とした「異分野融合先端研究コア」テニュアトラック制、女性研究者の雇用促進・育成を目的とした「ウーマン・テニュア・トラック制」として引き継がれ、制度の有効性の認識が学内に広く浸透しつつある。また、「部局型(一般型)TT制度」として、文系部局を含む多くの部局でテニュアトラック制の効果が導入されつつある。本事業によるウーマン・テニュア・トラック制の推進は、大学全体の教育・研究の活性化の促進、及び、若手研究者と女性研究者の採用を全学として一体的に促えた先進的な取組として評価できる。

・制度設計(人材育成策の方針、理念、機関のリーダーシップを含めて)：女性研究者の育成を目的としてウーマン・テニュア・トラック制を導入したことは、研究活動活性化への先進的な取組として評価できる。しかしながら、テニュアトラック教員の待遇面(給与等)、および、PIとしての育成環境等に制度設計上の問題があり、改善を期待する。

・目標達成状況：ウーマン・テニュア・トラック制で年2～3名採用の目標を達成していることは評価できる。また、自主的取組によりテニュアトラック制が文系、教育系を含め全学で導入されたことは評価できる。

・公募・選考・採用：自主的取組も含めて順調に公募・選考・採用を行い、平成27～29年度に、外国籍研究者を含め7名を採用していることは評価できる。

・研究者の育成：博士前期(修士)課程学生の主任指導資格が認定されていないこと、また、待遇面(給与等)については、改善を期待する。テニュアトラック教員の1人は、メンターが1名であり、大半の論文でメンターと共著関係にあり、自立的な研究環境での育成の観点から、複数のメンターを配置する等、改善が必要である。

・今後の進め方(普及・定着に向けた今後の進め方や継続性、将来展望)：自主的取組と合わせて、全学でウーマン・テニュア・トラック制が定着し、教育・研究活動の活性化に繋がっていることは評価できる。また、テニュアトラック教員の活動が全学で認められ、制度の継続性に繋がっていることも評価できる。

(事後評価)

テニユアトラック普及・定着事業
(実施期間：平成 23 年～平成 30 年度)

実施部局：岡山大学 ウーマン・テニユア・トラック (総括責任者：榎野 博史)

(1) 評価結果

総合評価	制度設計・組織体制	実績・目標達成度 (具体的方策、成果等を含めて)			補助事業期間終了後の継続性
		部局の実績	公募・選考・採用、中間審査、自立的な研究環境の整備及びテニユア審査	採用されたテニユアトラック教員の研究成果・実績	
A	b	a	b	b	a

総合評価：A(妥当である)

(2) 評価コメント

女性研究者の雇用促進・育成を目的として、機関本部のガバナンスの下、平成 21 年度に「ウーマン・テニユア・トラック制」を構築し、学長直轄の「ダイバーシティ推進本部」の主導により、女性のワークライフバランスに配慮した制度設計の下、本事業を推進した。受け入れ部局が互いに異なるテニユアトラック教員が所属する当該組織における異分野交流環境での広い視野の育成は、テニユアトラック教員の研究活動活性化に貢献した。「ダイバーシティ推進本部」と連携した組織的な活動と多様な分野での女性テニユアトラック教員の活躍は、テニユアトラック制の全学での理解を促し、「ウーマン・テニユア・トラック制」は文系分野を含めて全学に普及し、更に、女性教員の増加にも貢献する好循環を生んだ。グローバルに活躍できる若手研究者の育成と合わせて、「ウーマン・テニユア・トラック制」を継続する計画である。女性教員を対象としたユニークな取組として評価できる。

・制度設計・組織体制：「岡山大学男女共同参画推進基本計画」を踏まえ、機関本部のガバナンスの下、若手女性教員の獲得と育成を目的に、全学の部局と連携して「ウーマン・テニユア・トラック制」を実施した。テニユアトラック期間は当初 3 年から 5 年に改善された。しかしながら、給与面の待遇が通常の助教よりも低く設定されていること、セーフティネットの情報が予めテニユアトラック教員に伝えられていない点については改善が必要である。

・部局の実績：受け入れ部局との密接な連携の下、「ウーマン・テニユア・トラック制」を推進した。制度推進の経験が学内で共有され、若手女性教員の人事制度として普及するとともに、女性教員の増加を促した。女性教員を対象としたユニークな取組実績として評価できる。

・公募・選考・採用、中間審査、自立的な研究環境の整備及びテニユア審査：受け入れ部局の異なるテニユアトラック教員が研究活動をする当該組織の中で、異分野交流環境での育成が行われ、国際シンポジウムや研究者シーズ発信会等がテニユアトラック教員の研究活動活性化に寄与した。しかしながら、テニユアトラック教員のうち数人はメンターと共著関係にあり、自立的な研究環境の改善が必要である。

・採用されたテニユアトラック教員の研究成果・実績：テニユアトラック教員は活発な研究活動を行い、国際的な高い発信力のある研究成果も生まれた。その研究活動が機関の研究活動活性化を促した。しかしながら、事業実施当初のテニユアトラック期間 3 年は育成期間としては短く、十分な研究業績に繋がらない事例があった。

・補助事業期間終了後の継続性：テニユアトラック制推進の経験が全学で共有され、文系も含め全学に普及する中で、グローバルに活躍できる若手研究者を育成する取組も検討され、年 1 名の規模で「ウーマン・テニユア・トラック制」を継続的に推進する計画であり、評価できる。

(事後評価)

テニュアトラック普及・定着事業
(実施期間：平成 23 年度～令和元年度)

実施機関：岡山大学（総括責任者：横野 博史）

(1) 評価結果

総合評価	制度設計・組織体制	実績・目標達成度 (具体的方策、成果等を含めて)			機関として テニュアトラ ック制を継続 する仕組みの 構築
		目標達成状況	平成 27 年度 公募事業で採 用されたテニ ュアトラック 教員の公募・ 選考・採用、 中間審査、自 立的な研究環 境の整備及び テニュア審査	平成 27 年度 公募事業で採 用されたテニ ュアトラック 教員の研究成 果・実績	
B	b	a	b	a	a

総合評価：B(やや不適切である)

(2) 評価コメント

「若手研究者の自立的な研究環境整備促進」事業でのテニュアトラック制の経験が全学で共有され、優秀な若手研究者の確保・育成を目的とした「異分野融合先端研究コア」と女性研究者の雇用促進・育成を目的とした「ウーマン・テニュア・トラック制」の2つが「拠点型(研究活動重点支援型)制度」として引き継がれ、制度の有効性の認識が学内に広く浸透した。また、「部局型(一般型)制度」として、文系部局を含む多くの部局でテニュアトラック制が導入されつつある。本事業による「ウーマン・テニュア・トラック制」の推進は、大学全体の教育・研究活性化の促進、及び、若手研究者と女性研究者の採用を全学として一体的に捉えたダイバーシティを考慮した先進的な取組として評価できる。自主的な取組として多くのテニュアトラック教員を採用しており、今後も制度を継続する予定である。しかしながら、「ウーマン・テニュア・トラック制」での待遇面(給与等)、自立した PI(研究主宰者)としての研究環境等については、本事業の趣旨に合った制度の改善が必要である。

・制度設計・組織体制：機関本部の主導の下、女性研究者の育成を目的として「ウーマン・テニュア・トラック制」を導入したことは、研究活動活性化へのダイバーシティを考慮した先進的な取組として評価できる。しかしながら、テニュアトラック教員の待遇面(給与等)、自立した PI(研究主宰者)とする育成環境等に制度設計上の問題があり、改善が必要である。

・目標達成状況：テニュアトラック制実施の経験を全学で共有する努力とテニュアトラック教員の活躍が相乗して全学への制度普及を促し、自主的な取組も含めて多くのテニュアトラック教員の採用が行われた。この中で、「ウーマン・テニュア・トラック制」は当該機関全体の女性教員比率向上に貢献している。当該機関の取組は評価できる。

・平成 27 年度公募事業で採用されたテニュアトラック教員の公募・選考・採用、中間審査、自立的な研究環境の整備及びテニュア審査：一括公募により分野の異なる 3 名のテニュアトラック教員を採用し、ネットワーク交流会、所属部局以外の教員との交流等、異分野交流環境の中での育成が図られたことは評価できる。研究指導者が唯一のメンターである事例については改善が


図られたが、PI(研究主宰者)育成の支援をするメンターの参加が十分でなく、更なる改善が必要である。

- ・平成27年度公募事業で採用されたテニユアトラック教員の研究成果・実績：テニユアトラック教員の多くは積極的な研究活動を展開し、国際的に注目される研究成果も挙げており、当該機関の研究力向上と国際化に貢献したことは評価できる。

- ・機関としてテニユアトラック制を継続する仕組みの構築：「拠点型制度」、「部局型制度」により、本事業と自主的取組と合わせて多くのテニユアトラック教員を全学で採用しており、全学制度としてテニユアトラック制が継続されていることは評価できる。しかしながら、待遇、PI(研究主宰者)としての育成等については、事業の趣旨に合った制度の改善を期待する。



あとかき



平成21年度に文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成事業」に採択されたことを契機に、WTT制を構築しました。WTT制の継続により、若手女性研究者の活躍が促進され、本学の教育・研究の活性化につながっております。

しかしながら、女性研究者の教育・研究環境を取り巻く状況はまだまだ克服すべき課題が多く残っており、引き続き優秀な女性研究者の雇用・育成・支援を進め、研究環境におけるより高度なダイバーシティ文化の構築に取り組む必要があります。

今後は、年に最低1人のWTT教員の雇用を継続し、更なるテニユア・トラック制の浸透・定着により、大学全体の教育・研究の活性化を図り、岡山から世界に新たな価値を創造し続けるSDGs推進研究大学を目指していきたいと考えています。

令和3年3月発行

国立大学法人岡山大学 ダイバーシティ推進本部男女共同参画室

【T E L】 086-251-7011

【E-mail】 sankaku1@adm.okayama-u.ac.jp

【U R L】 <https://www.okayama-u-diversity.jp/>

